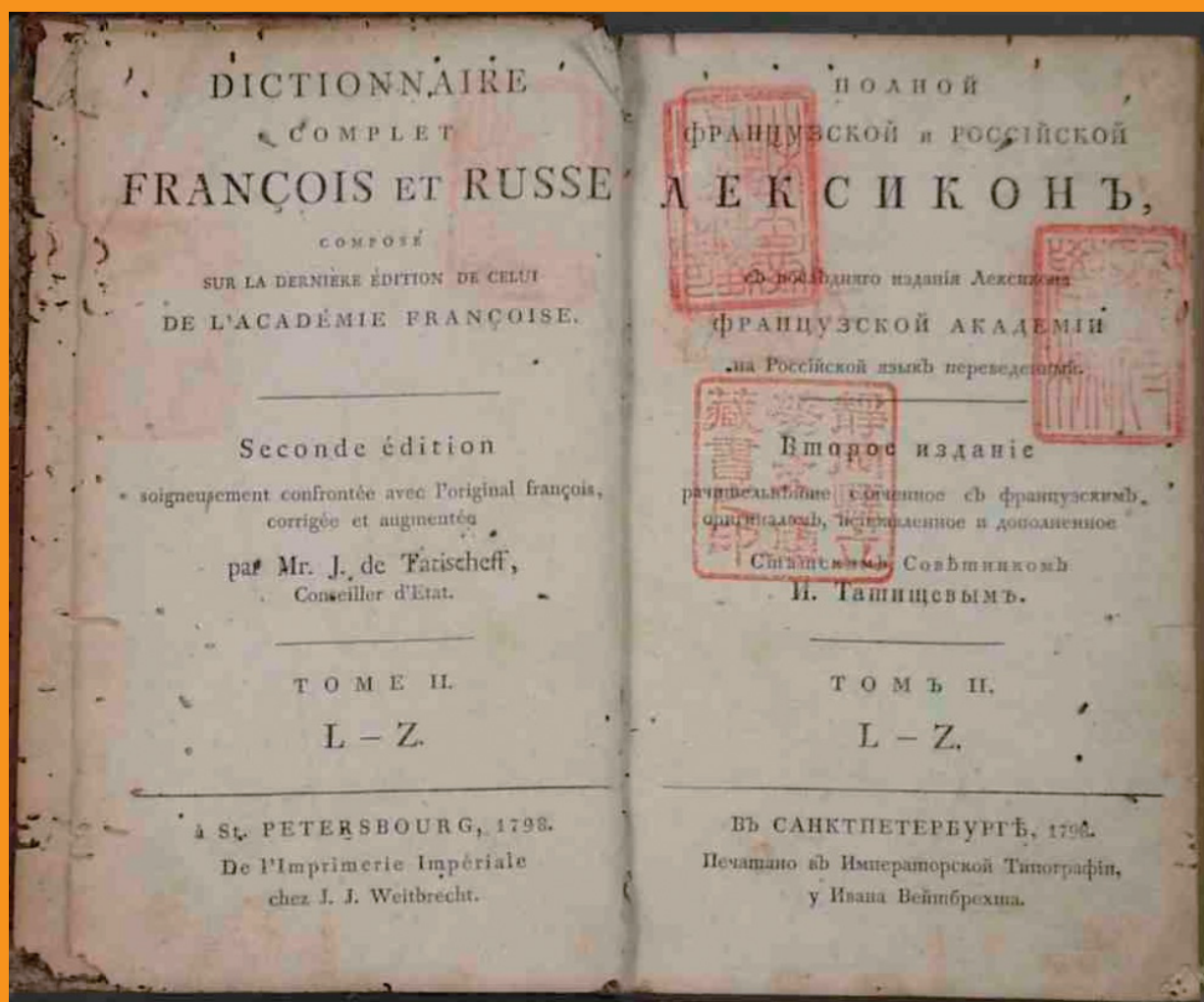


葵

59号 令和7年度



目 次

巻頭言	静岡県立中央図書館長 高橋 健二	1
I 当館の概要（令和7年度）		2
1 沿 革	2 令和7年度基本方針・事業体系	3 組織図
4 職 員	5 予 算	6 資 料 (1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告（令和6年度）		12
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和6年度）		13
(1)図書館をめぐる社会情勢	(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組	
(3)県内市町の新図書館設置の動き	(4)県内図書館その他の動き	
(5)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催		
2 利用状況統計		21
(1)県立中央図書館利用状況	(2)協力貸出	(3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	(5)歴史文化情報センター利用状況	(6)電子図書館利用状況
3 図書館資料充実状況		24
(1)図書資料	(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等	
(3)逐次刊行物（新聞・雑誌）	(4)電子書籍	
4 図書班		27
(1)図書資料の充実	(2)視聴覚資料の充実	(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）	(5)子ども図書研究室	
(6)子どもコーナー「どんぐりひろば」	(7)静岡県視聴覚ライブラリー	(8)展示他 (9)資料データ整備
5 新聞雑誌班		34
(1)逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実	(2)提供情報の充実	(3)その他
6 一般調査班		36
(1)レファレンスサービス	(2)市町立図書館などへの支援	
(3)特別取扱資料等の保存と公開	(4)障害者サービス	(5)その他の関連事業
7 地域調査班		41
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実 (3)資料展示 (4)市町立図書館への支援 (5)地域資料のデジタル化		
(6)地域貴重資料の保存 (7)地域視聴覚資料の媒体変換 (8)歴史文化情報センター		
8 企画班		44
(1)図書館職員研修 (2)利用者からの意見 (3)イベント等 (4)図書館サポーター		
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報 (7)ムセイオン静岡 (8)浙江図書館との友好提携		
(9)山梨県立図書館との連携協定 (10)市町立図書館等受取サービス (11)図書館 DX		
附属資料 令和6年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果		
9 振興班		56
(1)市町立図書館振興 (2)協力車事業 (3)令和6年度 第31回 静岡県図書館大会		
(4)関係団体との連携 (5)表彰（敬称略・関係団体の表彰も含む）		
10 総務班		61
(1)図書館協議会 (2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況		
11 健康医療情報サービス		63
(1)サービス内容 (2)関連事業		
12 歴史文化情報センター（地域調査班）		64
(1)県史編さん収集資料の保存・整理・公開 (2)利用状況		
13 資料紹介 新貨を流通させる―大村正敏家「金銀引替御用」関係文書		65
III 特集		69
1 令和6年度葵レク貴重書講座		70
2 寄稿 「浙江省文庫の価値」		74
IV 施設及びサービス案内（令和7年度）		76
1 図書館配置図 2 施設の概要 3 ブラウジング・閲覧室案内図 4 利用案内（令和7年度）		

Happy Centennial Year !

静岡県立中央図書館長 高橋 健二

令和 7 年 4 月に静岡県立中央図書館は創立 100 周年を迎えた。この記念すべき年に図書館で勤務できることを、この上なく光栄に感じている。大きな節目にあたり、所蔵資料を使って少し当館の歴史を振り返ってみたい。まずは、閲覧室の『静岡新報 複写製本版』で大正 14 年 3 月を確認すると、県立葵文庫開館当時の記事があった。

(大正 14 年 3 月 28 日 (土曜日))

葵文庫けふ開館式 駿府徳川時代の歴史的背景と総工費二十四万八千二十八円の巨費を投じて竣工せる県立葵文庫開館式は既報の通り二十八日午前十時より同館講堂に於いて挙行される (後略)

蔵書二万二千冊 県民共有の大宝庫である同文庫の蔵書数は現在二万二千冊で其大部分は県教育会及静岡師範学校から移管寄付されたもので閲覧の手続きは玄関に入って受付で番号札を受け取り閲覧表を見て用紙に希望書名を記入して借覧することになって居り人員は大人百八十人、児童六十三人の閲読をなし得る設備がある (後略)

翌 29 日の記事には、来賓 300 余名が出席の開館式にて、館長式辞、建築課長の工事報告、来賓祝辞等があり、その後宴会場にて昼食会が開かれたとある。午後は大学教授の講演会も開催され、県民が待ち望んでいた施設の完成を、多くの人が祝福した様子がよく分かる。

次に『静岡新聞 静清版 マイクロフィルム』昭和 45 年 4 月 (2) で、静岡県文化センターの中心施設として図書館が現在の所在地に移転開館した当時を確認してみよう。

(昭和 45 年 4 月 16 日 (木曜日))

開館間近い“文化の殿堂” 県立中央図書館、準備に大忙し (前略) 情報化時代に対処した情報センター機能として産業教育などあらゆる分野の資料を網羅した同図書館は地方館としては最大級のもの。県民の森と大庭園に囲まれた“公園図書館”が文化の香りを求める県民でにぎわう日ももう間近だ。

期待を込めて新しい書棚に本を配架する図書館員の写真も掲載されている。また同月 19 日の記事では、18 日の開館式に知事、国会議員、県会議員、市町村長、財界・文化・婦人団体の代表者など約 600 人が参加した祝賀の様子を伝える一方で、“本県の行政は今まで産業重視の傾向が強く、文化面は大きく立ち遅れていただけに教育界や文化関係団体の喜びは大きい。”と記述している点に世間の風潮が垣間見える。

そして現在、新図書館のサービス計画作成などソフト面の準備が着々と進んでいる半面、世界各地の紛争による資材及び人件費の高騰、各地での建設・整備ラッシュの影響による人材不足等から、施設設備のハード面は予断を許さない状況にある。しかし、これまでの歴史と伝統に加え現代社会が図書館に求める新たなニーズも見据え、人々が“集う・探究する・交流する・創造する”ことで幸福度日本一の実現に寄与する図書館の完成を目指し、職員一丸となってポジティブに業務に取り組んでいく所存である。

自分も 10 月に還暦を迎える。誕生当時の世相を知るべく、新聞記事で調べてみようと思う。

【参考とした当館所蔵資料】

静岡新報 (複写製本版) 大正 14 年 3 月. 静岡新報社. (SZ07/1)

静岡新聞 静清版 (マイクロフィルム) 昭和 45 年 4 月 (2). 静岡新聞社. (SZ07)

静岡県文化センター. 静岡県文化センター建設事務所. 1970. (S010/45)

I 当館の概要（令和 7 年度）

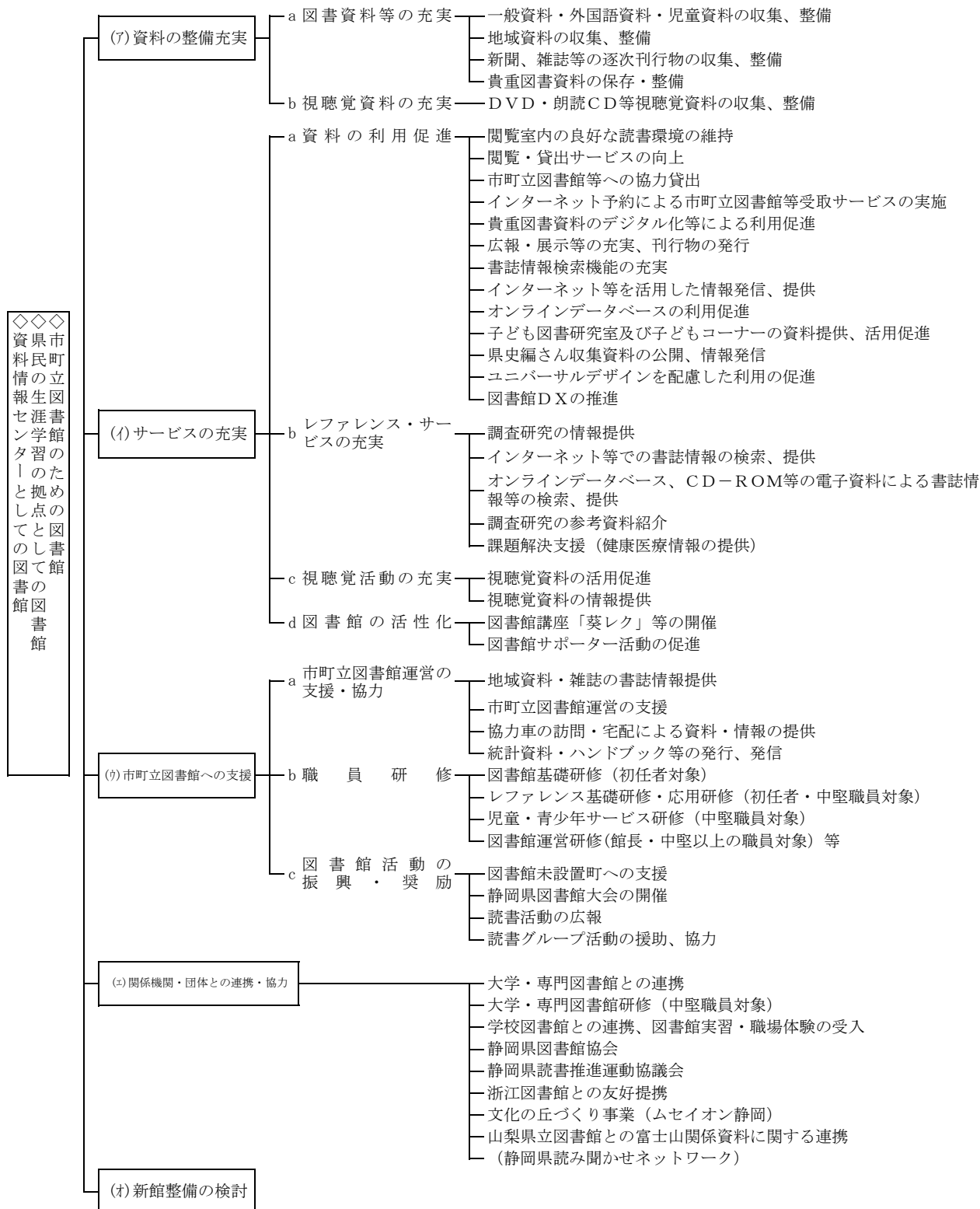
1 沿革

大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。 設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀観書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙
昭和12年8月30日	ショメールの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「静岡県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定 され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和62年4月	静岡県公共図書館振興対策事業の実施（5か年計画）
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊 行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長
平成10年10月1日	Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等）
平成11年3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成11年4月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成12年4月1日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成12年6月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざ

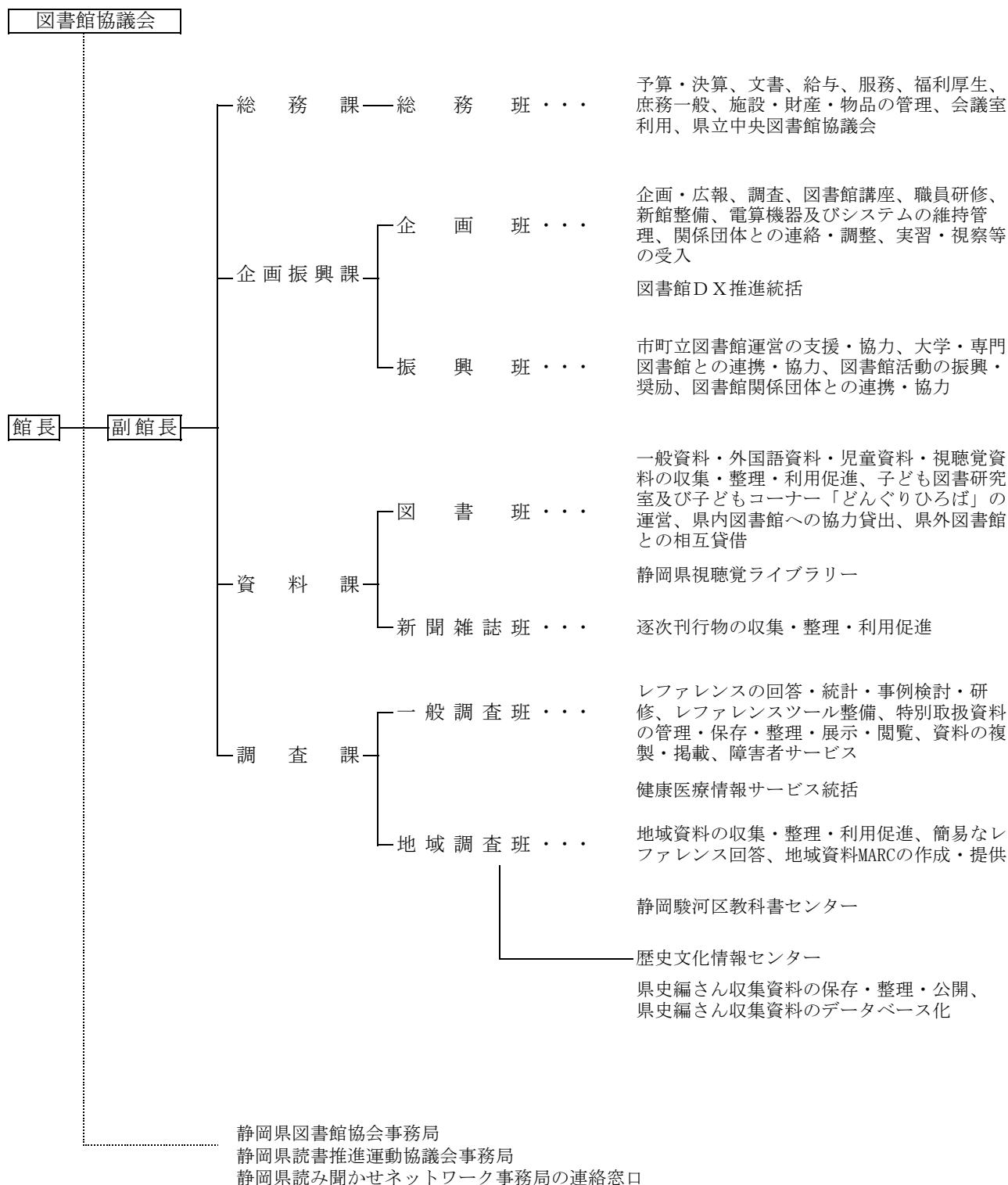
	れあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年 5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年 6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年 8月 1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始
平成15年 4月 1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年 7月 2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年 3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年 6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年 4月 1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成17年 9月 1日	『「しずおか」の貴重書』刊行
平成19年 9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年 2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年 2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年 3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年 7月 1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月 1日～平成22年 3月30日）
平成21年 9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」より当館に移動
平成21年10月 2日	『「しずおか」の貴重書（改訂版）』刊行
平成21年10月15日	『関口隆吉関係書簡集』発行
平成22年 2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年 5月 1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌に変更。
平成22年 3月31日	耐震補強工事関連作業及びシステム更新作業のため休館（～5月31日）
平成22年 6月 1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン。 また、携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能に。 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能に。
平成22年 6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年 9月 1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文が、インターネットから閲覧可能に。
平成23年 1月 8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年 2月 1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携し、当館デジタルライブラリーが、PORTAから検索可能に。
平成23年 5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年 7月 9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修開催（～12月 2日）
平成24年 1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年 2月 1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（3月15日まで）
平成24年 3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始
平成24年 4月 1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年 6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年 6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年 7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダ

	ービー」開催（～９月）
平成24年 7 月 7 日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年 3 月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年 4 月	歴史文化情報センター「授業の種」公開
平成26年 2 月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年 7 月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年 4 月 1 日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年 6 月 2 日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年 8 月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開
平成28年 2 月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入
平成28年 4 月	祝日開館開始
平成28年 6 月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」本格導入
平成29年 7 月 4 日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（～7月31日）8月1日以降「閲覧室の利用」以外の業務を順次再開
平成30年 3 月	「新県立中央図書館基本構想」策定
平成30年 4 月 1 日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正
平成30年 5 月 7 日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管
平成31年 2 月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了
平成31年 3 月14日	閲覧室の利用を再開
平成31年 3 月	「新県立中央図書館基本計画」策定
令和元年10月11日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～令和2年2月25日）
令和元年10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館
令和2年 3 月	「新県立中央図書館管理運営計画」策定
令和2年 4 月18日	新型コロナウイルス感染防止対策のため臨時休館（～5月11日） （4/18～4/27はシステム更新による休館）
令和2年 8 月	「新県立中央図書館基本計画」改訂
令和2年 9 月 7 日	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」閉室
令和2年10月 1 日	子どもコーナー「どんぐりひろば」開設
令和2年12月 1 日	令和2年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修会開催（～12月4日、ライブ配信）
令和3年 3 月	「新県立中央図書館整備計画」策定 「県立中央図書館司書育成指針」策定
令和3年 9 月	「新県立中央図書館整備計画」「新県立中央図書館管理運営計画」更新
令和3年10月 1 日	電子図書館サービス開始
令和4年 3 月	「県立中央図書館司書育成指針」改訂
令和4年 9 月	「新県立中央図書館システム基本構想」策定
令和5年 7 月	新県立中央図書館基本設計の完成、概要の公表
令和5年11月 1 日	静岡中央ビルの老朽化による建替工事に伴う移転作業のため、歴史文化情報センター休館 （～令和6年4月1日）
令和5年11月13日	第30回記念大会静岡県図書館大会を開催
令和6年 4 月 2 日	歴史文化情報センターが本館にて業務再開
令和7年 4 月 1 日	創立100周年記念事業を年間にわたり展開

2 令和7年度基本方針・事業体系



3 組 織 図



4 職員

館長 高橋 健二										
副館長 瀧 み や こ										
総務課	総務課長 (兼) 瀧 み や こ (副館長)									
	総務班	総務班長 田中 理一								
		主査 吉村 亜矢子								
		主任 東元 香澄								
		主事 石黒 愛梨								
企画振興課	企画振興課長 阿 部 幸 子									
	企画班	企画班長 青木 修				振興班	振興班長 青山 滋乃			
		主幹 藤ヶ谷 昌則					主査 川崎 祥子			
		主査 渡辺 勝					主任 殿岡 容子			
		主査 入月 卓也								
資料課	資料課長 木 村 知 美									
	図書班	図書班長 三枝 春奈				新聞雑誌班	新聞雑誌班長 水井 千保子			
		主査 眞子 みな					主査 安田 宏美			
		主査 前林 真美					主事 田中 凌太			
		主事 上村 まりを								
		技能員 加藤 桂子								
調査課	調査課長兼一般調査班長 鈴 木 由 美									
	一般調査班	主査 児玉 匡史				地域調査班	地域調査班長 八木 麻美			
		教育主査 土屋 祐加					教育主幹 山本 加奈恵			
		教育主査 水野 彰紀					主事 板橋 由佳			
		主事 湯川 愛結					主事 山中 菜緒			
							(歴史文化情報センター)			
							教育主査 尾上 容子			
							教育主任 柴 雅房			
							主任 大林 元			

5 予 算

(単位：千円)

事 業 名	R 7 予算額	説 明
県立中央図書館管理運営費	145,100	・ 図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・ 県立中央図書館の施設等維持管理に要する経費
県立中央図書館資料充実費	86,900	・ 図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費（電子書籍3,800千円含む）
小 計	232,000	
新県立中央図書館整備事業費 (現図書館執行分)	46,501	・ 新県立中央図書館整備に要する経費（新サービス用図書購入／ICタグ貼付／貴重資料移転準備）
合 計	278,501	

6 資 料

(1) 収集基本方針

ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く収集する。

イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）収集する。特に選定された児童図書は、さらに複数部収集する。なお、15 歳から 18 歳未満対象（YA）の図書についても選書及び収集に配慮する。

ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

エ 外国語資料

県民（在住外国人を含む）の日本理解や国際理解及び生涯学習のための資料を幅広く収集する。

オ ティーンズ資料

ティーンズ（13 歳から 18 歳）を対象とした資料及び各分野の基本的資料、ティーンズ世代の関心が高い分野について収集する。

カ 逐次刊行物（新聞、雑誌）

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実に努める。地域雑誌の収集にも留意する。

キ 視聴覚資料

優れた映像や音響への要求が高まる中で、文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

ク 電子書籍

高校生・大学生から社会人を対象とした、「知識の拡充」及び「経験の補完」を支援する資料を収集する。

※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種関係機関との機能を考慮している。

(2) 資料概要

ア 一般資料

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

イ 児童資料

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

ウ 地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

エ 外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・各分野の一般図書

オ ティーンズ資料

- ・各分野の基本的な参考資料及び入門的資料
- ・ティーンズ世代の発達段階に対応する分野の資料
- ・学習指導要領に沿った、学習に役立つ資料
- ・探究に役立つ資料

カ 逐次刊行物(新聞・雑誌)

- ・一般紙(誌)、学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要類、会社や研究所の研究技報類
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

キ 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム(県視聴覚ライブラリー資料を含む)

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

ク 電子書籍

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

ケ 特殊コレクション等

(7) 特殊コレクション

資 料 名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概 要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	- 江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる（『江戸幕府旧蔵書目録』（葵文庫）（昭和 45 年 4 月 18 日発行）による）。 - 明治元年府中（静岡）藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59 平成 25	関口壮吉 関口隆克	- 第 3 代静岡県令（初代県知事）関口隆吉収集の図書・文書・記録類 837 部 2,455 冊からなる。 - 図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。 - 文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。 - 隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「久能文庫」として寄贈された。
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵（錦絵）など版画類約 5,100 枚

(イ) 主な本県ゆかりの貴重資料

資 料 名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概 要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。
内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	- 内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 - 軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

(注) ^{やま なし とう せん}〔山梨稲川〕(1771～1826) 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

^{うちやま ま た つ}〔内山真龍〕(1740～1821) 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：静岡新聞社出版局編．静岡県歴史人物事典．静岡新聞社，1991．

Ⅱ 事業報告（令和 6 年度）

1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和6年度）

(1) 図書館をめぐる社会情勢

ア 公立図書館の現状

令和6年4月1日現在、全国の自治体数1,788に対する図書館設置自治体数は、令和5年度から市区で1、町村で3、それぞれ増加して1,403、設置率は78.5%である。図書館数は、令和5年度から市区立で3、町村立で6、それぞれ増加して3,301である。令和元年度からは、市区立で2減少、町村立で15増加している。図書館法（昭和25年法律第118号）制定から74年が経過しているが、設置率は市区立の99.3%に比べて、町村立は59.1%と低い状況にある。なお、（一財）地方自治研究機構が法制執務支援のために「条例の動き」としてWebサイトで紹介している「図書館条例」の項（http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/reiki/095_library.htm）が令和6年12月20日に更新された。

指定管理者制度を巡る現状は、「図書館における指定管理者制度の導入等の調査について2023（報告）」（（公社）日本図書館協会図書館政策企画委員会）によると、令和4年度までに導入または令和5年度に導入予定の館は、都道府県立図書館では施設管理のみの指定管理者も含め7府県8館、市区町村立図書館では293自治体687館となっており、令和6年度以降に導入を予定しているのは14自治体であった。県内の市町立図書館は、昨年度から増減なく3市1町（浜松市、御殿場市、裾野市、小山町）である。

イ 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表

令和6年8月8日午後4時43分頃に日向灘沖で発生した最大震度6弱の地震を受けて、午後7時15分に気象庁から南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された。これは、大規模地震の発生の可能性が平常時より高まっているため、日頃からの地震への備えの再確認、地震が発生したらすぐに避難するための準備を行うことを呼びかけるもので、一部区間で新幹線が速度を落として運行したり、在来線の特急が運休したりするなどの影響はあったが、県内図書館は通常開館する館がほとんどで、危機管理マニュアルの再確認や避難経路の周知、注意喚起等が行われた。今回の発表は、令和元年に運用が開始されてから初めてのことであったが、大きな混乱はなく、15日午後5時に呼びかけ期間の終了が発表された。

8月14日に、（公社）日本図書館協会図書館災害対策委員会は、「図書館で考える南海トラフ地震への備え」をWebサイトに掲載した。9月13日には、引き続き図書館のマニュアルなどの再確認を促すとともに、地震への備えの参考となるよう、「南海トラフ「巨大地震注意」呼びかけの終了に伴う対応」を掲載した。

ウ デジタル化の進展

コロナ禍により、非接触・非対面、来館不要の電子図書館サービスは全国的に導入が進んだ。（一社）電子出版制作・流通協議会の調査によると、公共図書館の電子図書館サービス（電子書籍サービス）導入自治体は、令和6年1月時点では538自治体（30.0%）であったが、令和7年1月時点では585自治体（32.7%）へ増加している。県内では令和6年度に2市1町（菊川市、袋井市、長泉町）が導入し、県を含む14自治体（38.9%）が導入済みである。

図書館のデジタル化関連の具体的な例としては、以下のものが挙げられる。

- ・国立国会図書館が、「国立国会図書館デジタルコレクション」収録の図書、雑誌等約26万点を、新たに「図書館向け／個人向けデジタル化資料送信サービス」の対象とした。今回の追加で、送信対象資料は約205万点となった。また、6月には同コレクションに図書及び新聞約14.3万点を追加し、これにより、昭和44（1969）年1月から平成7（1995）年12月までに整理された国内刊行図書の大半のデジタル化及び公開が完了した。10月からは、同コレクションの全文検索で、検索結果位置がピンで表示されるようになり、12月には資料数が300万点を突破した。2月

からは遠隔複写サービスの複写物をPDFファイルで提供する「遠隔複写（PDFダウンロード）」を開始した。

- ・宮城県図書館が、12月17日から2月28日まで、利用カードを作成する際に、デジタル身分証アプリの画面提示により本人確認をする実証実験を行った。
- ・東京都立図書館が、令和6年3月から試行提供している所蔵資料紹介型AIチャットボット「AI ChatShelf」を令和7年3月7日から本格実施へ移行した。
- ・岐阜県図書館が、図書館システムをリニューアルし、AIを活用した蔵書探索やデジタルアーカイブの機能などを追加した。
- ・岡山県立図書館が、(公財)放送番組センター提供の「全国放送番組アーカイブ・ネットワーク」サービスを導入した。昨年の郡山市中央図書館、7月の札幌市中央図書館に続き、全国で3例目となる。
- ・久喜市立図書館が、(株)図書館流通センター、京セラコミュニケーションシステム(株)と共同で、生成AI蔵書検索システムの実証実験（令和6年5月～7年3月）を行った。
- ・調布市立図書館が所蔵する映画資料について、公立図書館としては初めて、映画資料所在地情報検索システム（JFROL）で検索可能となった。
- ・岡山県の1市2町（高梁市、吉備中央町、美咲町）が電子図書サービス「おうちデジタルライブラリー」の試験運用（令和6年7月～7年2月）を行った。
- ・岡山県の1市5町（津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町）で構成される津山圏域定住自立圏の図書館相互利用事業の一環として、「つやまエリアデジタルライブラリー」の運用が開始された。
- ・熊本県菊池市が平成29年に単独で導入した電子図書館に、同じ圏域の他の1市2町（合志市、菊陽町、大津町）が順次参加し、合志市の参加により「きくち圏域電子図書館」となった。
- ・平泉町立図書館が、シダックス大新東ヒューマンサービス(株)と(株)サイバーコアが共同開発した画像解析AIによる図書館蔵書管理システム「KoKoBo（ココボ）システム」を搭載した業務ロボットを導入した。

エ 読書バリアフリー法関連

令和元年6月28日 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）公布

令和2年12月22日 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進における留意事項について」発出

令和5年7月19日 国立国会図書館が事務局となる「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」が、「電子図書館のアクセシビリティガイドライン1.0」を公開。以後、更新に向けた作業が継続される予定。

令和6年1月5日 国立国会図書館が、国立国会図書館障害者用資料検索（愛称：みなサーチ）の正式版を公開

文部科学省による令和6年2月1日時点の調査では、都道府県のうち、計画の策定済みが19、策定作業中が19、検討中が9で、予定なし（未定含む）は0となった。計画の位置づけとしては、策定済み、作業中、検討中のうち単独の計画が13、障害者政策の計画の一部に位置づけが23、その他の計画の一部に位置づけが5、未定が6となっている。

オ 著作権法関連

令和3年6月2日 「著作権法の一部を改正する法律」公布

令和4年5月1日 同法のうち、国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信の部分が施行

令和4年5月19日 国立国会図書館が「個人向けデジタル化資料送信サービス（略称：個人送信）」を開始。当初は閲覧のみ、令和5年1月18日から印刷機能の提供を開始

令和5年3月29日 文化庁が「図書館等公衆送信補償金規程」を認可

令和5年5月30日 図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会が「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」を制定

令和5年6月1日 同法のうち、各図書館等による図書館資料のメール送信等の部分が施行

令和6年4月25日、(一社)図書館等公衆送信補償金管理協会(以下「SARLIB」という。)は、同年6月頃を目途として開始する予定だった特定図書館等の登録及び利用報告等の受付を、システム開発の遅延を理由として延期すると発表した。

8月1日、著作権法施行令の一部を改正する政令が施行され、言語の著作物のうち、その全部が図書館資料の見開き面の一つ又は連続する二つの見開き面に掲載されているもの(定期行物に掲載されたものは除く。)について、全部の複製・公衆送信をすることができるものとして追加された。

9月12日、SARLIBは、遅延している特定図書館等の登録及び利用報告等の受付について、令和7年1月頃を目途として開始する予定で準備を進めることとなったと発表した。

SARLIBは、令和7年1月からの特定図書館等の登録及び利用報告等の受付の開始に向け、準備状況、登録方法、利用の流れ等について、登録を検討している図書館向けに説明会を令和6年11月29日と12月2日に行い、1月22日から特定図書館登録受付を開始した。

カ 出版界等の動き

(公社)全国出版協会・出版科学研究所は、令和7年1月24日発売の『季刊出版指標』冬号で2024年の出版市場規模を発表。紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年比1.5%減の1兆5,716億円であった。紙の出版物は前年比5.2%減の1兆566億円、電子出版は前年比5.8%増の5,660億円であった。内訳は、電子コミックは前年比6.0%増、電子書籍は2.7%増、電子雑誌は6.2%増となった。電子コミックのみで5,000億円を突破し、コロナ禍前の令和元年から5年間で倍増した。



また、令和5年3月末で夕刊を廃止した静岡新聞に続き、令和6年10月からは朝日新聞が、11月からは日本経済新聞が静岡県での夕刊の発行を休止した。物流における人手不足、原材料費の高騰などが理由とされ、それぞれデジタルサービス(電子版)を利用することで補完できるとしている。

東京中日スポーツは、令和7年1月31日で紙印刷を休止し、2月1日から電子版に全面移行した。

キ 図書館・書店の連携

現在、様々な主体が読書活動を促進しているが、出版市場の減退、書店の減少等、読書活動を取り巻く環境は深刻な状況である。このような状況のもと、令和5年3月に策定された第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、「図書館等が、地域の書店、出版社、民間団体等との連携に努め、地域に根ざした子どもたちのための読書環境醸成に取り組むこと」等が盛り込まれた。

これらを踏まえて、(公社)日本図書館協会では、令和5年10月から「書店・図書館等関係者における対話の場」を開催し、連携促進方策等について議論を行い、令和6年4月に「書店・図書館等の連携による読書活動の推進について～書店・図書館等関係者における対話のまとめ～」を

公表した。この中で、書店・図書館等の現状を分析し、複本や購入のあり方に係る課題を整理したうえで、両者の連携促進に向けた方策として、次のような提案がされた。

- ・書店在庫情報システムの開発と図書館との連携
- ・書店での図書館資料の受け取り・返却、図書館での書籍販売等
- ・「図書館本大賞」（仮称）の創設
- ・優良事例の収集・普及

今後の検討については、国が一定のルールを示すのではなく、関係者間の相互理解を積み上げ、協力できるところから始めていく必要があるとし、示された連携方策について、より具体的かつ実践的な方策について協議や実証を推進していくことが重要であるとした。

また、令和6年6月に文部科学省は「図書館・書店等連携実践事例集」を公開した。これは、全国各地で図書館と書店等関係者の連携の下に進められている特徴的な事例をまとめたもので、今後、取組を行う際に参考となるものである。

同月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024～賃上げと投資がけん引する成長型経済の実現～」(骨太方針2024)においては、「第2章 社会課題への対応を通じた持続的な経済成長の実現」の「6. 幸せを実感できる包摂社会の実現」で、「書籍を含む文字・活字文化の振興(書店と図書館等との連携促進及び読書バリアフリーの推進を含む。)や書店の活性化を図る」ことが盛り込まれた。

文部科学省は令和7年度予算概算要求で、読書人口を増やすことを狙って、図書館や書店等が参画する協議会を設置し、連携協働の取組により地域の活性化に資する読書を通じたまちづくりのモデルを構築すること、図書館と書店が連携を図る上で課題とされる事項に関する全国の実態調査を実施し分析等を行うことについて、予算を盛り込んだ。

9月、(一財)出版文化産業振興財団は、無書店自治体が27.9%、書店が1店舗もない市が8月末時点で15道県の24市、全国の書店数は前回調査の3月末時点の7,973から7,828に減少していること等を発表した。

経済産業省は、令和6年3月に「書店振興プロジェクトチーム」を立ち上げ、関係者へのヒアリングを行い、10月には「関係者から指摘された書店活性化のための課題(案)」を公表し、1か月のパブリックコメントを行った。

このような状況に関連する動きとしては、次のようなものが挙げられる。

- ・県立長野図書館が運営する長野県内図書館横断検索サービス「信州ブックサーチ」が「書店在庫情報プロジェクト」と連携し、探している本が、どの図書館にあるか、どの書店にあるかが一元的に調べられるサービスを7月31日から試行で開始した。
- ・㈱図書館流通センターと日本出版販売㈱が、図書館で本を販売する実証実験を令和7年度から複数の図書館で開始する予定であることを発表した。

また、㈱読売新聞グループ本社と㈱講談社は、令和7年2月に「書店活性化へ向けた共同提言」を発表し、必要と考えられる施策を提言した。その中では、書店と図書館が連携して読書活動の振興を担い、読書人口を増やしていく取り組みを進める必要がある、としている。

ク 図書館・学校図書館の運営充実

人口減少・少子化の深刻化、デジタル化、グローバル化の進展等により将来の予測が困難な時代とされ、学校・社会の課題が複雑化・困難化する中、図書館・学校図書館は、今後より一層積極的な役割を果たすことが求められている。

このため、文部科学省は、今日の図書館・学校図書館の現状や課題を把握・分析し、運営の充実に向けた検討を行う「図書館・学校図書館の運営の充実に係る有識者会議」を令和6年10月1日に設置し、第1回の会議を12月17日に、第2回を1月23日に、第3回を3月11日に開催した。委員として、当館館長(全国公共図書館協議会副会長)が参加している。

ケ 社会情勢に関連した当館の対応

当館では令和3年度に図書館DX実証実験として貸出カードのスマホ表示、利用者登録等Web申込、電子図書館の導入を行い、継続して運用している（詳細については「静岡県立中央図書館Webサービス拡充事業の事業報告及びその課題：図書館DX実証実験を中心に」（『専門図書館』307号）を参照）。利用者登録等Web申込については、年間を通じて県内の高等学校・特別支援学校にクラス単位・学校単位での申込募集を行い、令和6年度には、4校から申込があった。電子図書館の朝読書等での活用が期待される。

また、インターネット上に公開されている静岡県内自治体の行政資料PDFを自動収集するためにシステム（クローラ）を開発し、令和6年9月30日から、許諾のあった県機関、市町から収集した約35万件について公開を開始した。引き続き、システムの運用、資料の利活用の方法等について検討していく。

また、非来館型サービスとして実施しているインターネット予約による市町立図書館等受取サービスでは、令和6年度末現在、受取館20館でサービスの提供を行っている。

令和7年1月末には、4年9か月ぶりとなる図書館システムの更新を行い、2月1日から第8期システムの運用を開始した。新館開館を見越して、令和10年3月までの3年2か月のリースで、機能追加等を行わず再構築のみとし、おうだんくんシステムのリニューアルを行った。

(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組

ア 静岡県教育委員会（新図書館整備課）の取組

「C+A※・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体」とともに設計業務を進め、下記の取組とともに実施設計が完了した。

- ・設計業者や関係機関との協議、調整を行い、建築基準法に関するすべての手続（申請等）が完了した。
- ・県産木材の調達や活用に関して、有識者から意見を聴取した。
- ・新館でのサービス計画や家具等について検討した。（令和7年度以降も継続）
- ・移転時の汚損等を防止するため貴重書の外装を作成したほか、新館で新たに行うサービス用の資料を購入した。（同）
- ・建設工事着工に向け、グランシップ駐車場の西側未舗装部分の改修工事を実施した。

なお、10月に建築工事の入札公告を行ったが不調となったため、令和7年度秋以降の着手を目指して再入札の準備を進めた。（再入札に当たっては、東静岡駅と直結するペデストリアンデッキ等の一部機能を見直し）

※C+A：シーラカンズアンドアソシエイツ

《新館の概要》

- ・地上9階建てで延べ床面積は約20,000㎡、収蔵可能冊数は最大200万冊
- ・書庫等を可視化した「資料体」を館の中央に配置し、公開書庫として最大80万冊を閲覧可能
- ・低層階にホールやセミナールーム、カフェなど賑わいのある交流スペースを設置
- ・内装に木材を使い、温かみのある空間を作り上げるとともに、県産家具の活用も検討
- ・富士山が眺望できる閲覧席やテラスを配置



イ 静岡県立中央図書館の取組

- ・新館用として、令和5年度から児童資料を、令和6年度からティーンズ向け資料及びユニバーサル資料の購入を開始した。
- ・雑誌所蔵資料データ公開体制構築のため、令和6年度からバーコード貼付作業を開始した。
- ・令和4年度から、新館での業務を見据えて職員の長期研修を実施しており、令和6年度は埼玉県立久喜図書館へ職員1名を2か月間（10月～12月）派遣した。

(3) 県内市町の新図書館設置の動き

ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市立図書館（本館）	23	23	23	23	23
同（分館）	59	59	59	59	59
町立図書館	11	11	11	11	11
合 計	93	93	93	93	93

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門30、合計126館（分館を含む。）

イ 新図書館建設の動き

(7) 新伊東市立図書館（令和10年開館予定）

令和4年1月 伊東市新図書館基本計画を策定

3月 伊東市新図書館基本設計の概要を公表。令和6年度中の開館を予定。

令和5年5月 建設工事の入札が不調となる。

8月 再入札に向けて検討したが、資材価格や人件費の高騰を考慮して、当面の間、入札を見送ることを市長が発表。

11月 現計画のコンセプトや概念は維持しつつ、縮小するための再設計を実施することを発表。最速で令和7年4月に入札、7月に着工、令和9年の開館を目指すこととなった。

令和6年2月に再設計に関するアンケートを実施し、3月末に結果を公表、寄せられた意見は可能な限り反映できるよう検討を進めるとした。4月には再設計に向けた説明会を3回開催した。5月には新図書館計画の情報を発信するため、SNSアカウント（フェイスブック、インスタグラム）の運用を開始した。

9月には再設計後の施設概要が示され、床面積を約2割削減し、最短で令和7年4月から再入札を行い、令和10年上半期のオープンを目指すとした。あわせて、新図書館の事業効果を評価するための市民アンケートを行った。その結果、国の補助金を獲得するための基準値を超えることができた。

(4) 新御殿場市立図書館（令和8年4月開館予定）

令和4年1月 基本計画及び基本・実施設計業務委託契約を締結

11月 御殿場市立図書館等整備基本計画を策定

令和5年8月 実施設計を発表

10月 建築工事の入札が不落

12月 再度入札で施工業者が決定、着工。

令和6年9月議会で、書架などの設置工事の契約や会議室の利用料金を指定管理者の収入として収受させることができる利用料金制度の導入を議決した。

10月から12月にかけては、新図書館の郷土資料常設展示の整備に向け、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング（目標額2,000万円）を実施した。通常の返礼品のほか、市民も寄附できるよう、返礼品のないコースも用意され、寄付総額は1,931万5,500円だった。

(4) 県内図書館その他の動き

ア 改修工事、周年記念イベント等

- ・熱海市立図書館は、令和6年12月10日から7年3月20日まで空調設備・エレベーター改修工事に伴い閉館し、3月21日にリニューアルオープンした。
- ・伊東市立伊東図書館は、12月18日に図書館が入っている市生涯学習センター中央会館の外壁の一部が崩落し、3月末まで臨時休館となり、予約資料の受取窓口を設ける対応を行った。
- ・御殿場市立図書館は、5月8日から毎週水曜日に託児サービスを開始した。
- ・長泉町民図書館は、9月10日から絵本や児童書を中心とした電子図書館を開設した。
- ・富士市立中央図書館は、4月から毎週水曜日に託児サービスを開始した。
- ・静岡市立図書館は、令和6年3月から導入した電子図書館の教育現場での活用を図るため、市内の小中学生約4万3千人に利用IDを9月から一斉配布した。
- ・静岡市立中央図書館は、開館40周年記念として12月26日から1月12日まで伝統工芸品の展示、1月6～8日に本のおみくじの配布、19日にはライブラリーコンサートを開催した。
- ・静岡市立御幸町図書館は、9月に開館20周年を迎える記念として、館内に隠れた同館のキャラクターを探すイベントを5月に開催した。また、8月には同市立歴史博物館とコラボして中学生以下を対象としたクイズラリーを、1月には同館での出張読み聞かせを実施した。2月にはシニア向けの切り絵講座を実施した。
- ・静岡市立藁科図書館は、大規模改修工事を経て、4月20日にリニューアルオープンした。
- ・静岡市立清水興津図書館は、6月13日に20周年を迎え、オリジナルグッズが当たるくじ引き大会を開催した。11月10日には子ども向けワークショップを、1月17～19日にはくじ引き大会を実施した。また、静岡福祉大学附属図書館との共催事業として、1月18日に講演会を開催した。
- ・焼津市立大井川図書館は、10月26日からボードゲームの貸出サービスを開始した。
- ・牧之原市立榛原図書館は、「文化の森図書館いろ葉」として、4月21日にリニューアルオープンした。
- ・菊川市立図書館は、2月1日から電子図書館を開設した。
- ・袋井市立図書館は、1月7日から電子図書館を開設するとともに、市立図書館と学校図書室の蔵書を一元管理する「まちじゅう図書館」の運用を開始した。
- ・磐田市ひと・ほんの庭にこっとは、12月14日に開館から6年4か月で来館者100万人を達成した。
- ・湖西市立新居図書館は、6月1日に100周年を迎え、記念イベントを開催した。その他、記念ロゴを作成し、ロゴ入りのトートバッグを抽選でプレゼントしたり、ロビーにケーキの装飾を設置し、利用者に装飾してもらったりするなどした。

イ 令和6年台風10号への対応

令和6年8月末から9月初めにかけて日本に接近、上陸した台風10号は、日本列島各地に記録的な大雨や暴風をもたらし、大きな被害を出した。県内では、8月26日から9月2日にかけて断続的に雷を伴った激しい雨が降るなどして、各地で土砂崩れや浸水被害等が発生した。新幹線や在来線等の公共交通機関の運休、高速道路の通行止めなど、日常生活にも大きな影響があった。

県内図書館では、台風の接近に備えて臨時休館する館がいくつかあったが、大きな被害等はないかった。

(5) 静岡県図書館大会、関係団体実施事業等の開催

ア 第31回静岡県図書館大会（※詳細は9 振興班(3)令和6 年度第31回静岡県図書館大会を参照）

令和6 年11月11日にグランシップで開催した。午前は開会式、表彰式のあと、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏に「徳川家康は本を読んで天下を取った」と題して講演いただいた。午後には5つの分科会で多彩な講師陣による講演を行い、全体で818人が参加した。

また、令和7 年2 月4 日から3 月5 日までの間、講師の許諾の範囲内で、申込制によるYouTube 配信を行った（累計閲覧回数427回。）。

イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、令和6 年度から図書館大会の共催団体の一つとなり、第3 分科会（子どもの読書活動）を担当した。例年実施している全体研修会では、2 月16日に（公財）東京子ども図書館児童サービス主任の鈴木晴子氏に「東京子ども図書館の児童サービス～50年の歩みの中で～」と題して講演いただいた。

静岡県読書推進運動協議会は、静岡県図書館大会を共催し、理事が講演会を担当した。また、例年実施している夏休み子ども図書ウィークに協賛した。

2 利用状況統計

(1) 県立中央図書館利用状況

令和6年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

年・月	開館 日数	入館者数		新規 登録者数	貸出人数	貸出数			
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	合計
6・4	27	12,627	468	169	1,907	8,557	1,057	165	9,779
6・5	28	13,967	499	162	1,931	8,749	996	153	9,898
6・6	27	14,203	526	453	1,912	8,879	827	245	9,951
6・7	27	14,451	535	618	1,874	8,372	886	214	9,472
6・8	28	15,738	562	189	1,967	9,351	871	177	10,399
6・9	27	14,352	532	142	1,807	8,031	839	153	9,023
6・10	28	13,761	491	150	1,829	8,367	891	190	9,448
6・11	26	14,839	571	121	1,785	8,178	780	153	9,111
6・12	24	12,178	507	91	1,664	7,727	766	143	8,636
7・1	9	4,313	479	64	839	4,752	483	74	5,309
7・2	25	12,822	513	122	1,871	8,949	952	171	10,072
7・3	28	12,641	451	305	1,632	7,594	709	145	8,448
合計	304	155,892	513	2,586	21,018	97,506	10,057	1,983	109,546

新規登録者数のうちWeb申込登録者数	1,274
令和6年度末有効登録者数	92,259

(2) 協力貸出

(単位：点)

年・月		6 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	7 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	404	375	422	419	324	313	353	363	238	177	369	382	4,139
	雑 誌	54	37	41	38	24	55	31	31	13	23	52	55	454
	視 聴 覚	0	0	0	2	3	0	0	1	0	0	0	1	7
町立 図書館	図 書	36	39	43	52	49	54	61	56	27	36	41	43	537
	雑 誌	0	0	0	1	2	2	3	4	0	0	1	1	14
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学・専門 図書館	図 書	66	40	43	50	19	27	80	54	49	14	33	44	519
	雑 誌	2	2	10	14	4	6	1	5	4	0	6	4	58
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	図 書	506	454	508	521	392	394	494	473	314	227	443	469	5,195
	雑 誌	56	39	51	53	30	63	35	40	17	23	59	60	526
	視 聴 覚	0	0	0	2	3	0	0	1	0	0	0	1	7
総計		562	493	559	576	425	457	529	514	331	250	502	530	5,728

※町立図書館には条例未設置町の図書室を含む。

(3) レファレンス

(単位：件)

年・月		6 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	7 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		168	192	146	174	242	229	235	157	200	154	170	130	2,197
(静岡県関係)		58	73	64	60	50	64	78	68	59	88	69	70	801
所蔵・所在調査		236	232	184	200	259	307	199	181	198	64	239	201	2,500
(静岡県関係)		71	76	44	53	64	84	45	46	55	23	57	37	655
合 計		404	424	330	374	501	536	434	338	398	218	409	331	4,697
(静岡県関係)		129	149	108	113	114	148	123	114	114	111	126	107	1,456

(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

区分 \ 年・月	6 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	7 ・ 1	2	3	合計
16mmフィルム	11	4	6	1	0	3	0	0	0	6	0	4	35
ビデオテープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	11	4	6	1	0	3	0	0	0	6	0	4	35

(5) 歴史文化情報センター利用状況

(単位：人、件)

年・月	6 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	7 ・ 1	2	3	合計
資料閲覧点数	29	22	16	48	16	23	0	20	1	0	3	11	189
資料掲載等許可件数	1	5	6	4	3	3	2	2	4	5	5	4	44
レファレンス件数	13	11	8	11	7	7	4	4	3	0	7	4	79

(6) 電子図書館利用状況

(単位：件)

年・月	6 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	7 ・ 1	2	3	合計
閲覧数	1,114	1,392	1,092	981	904	833	1,207	1,474	880	958	1,074	1,232	13,141
試し読み	63	138	65	84	27	261	68	181	144	95	46	101	1,273
リクエスト件数	13	0	1	0	2	0	1	0	1	3	0	0	21

3 図書館資料充実状況

(1) 図書資料

(単位：冊)

分類		令和5年度末蔵書数	令和6年度中増減				令和6年度末蔵書数	
			受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)
一般資料	0 総記	64,881	1,443	84	△50	1,309	66,190	6.8
	1 哲学	34,412	671	19	△1	651	35,063	3.6
	2 歴史	64,219	1,132	235	△2	895	65,114	6.7
	3 社会科学	160,043	2,576	365	△11	2,200	162,243	16.6
	4 自然科学	56,349	1,461	130	△6	1,325	57,674	5.9
	5 技術	58,446	1,118	163	△1	954	59,400	6.1
	6 産業	41,937	684	121	△2	561	42,498	4.4
	7 芸術	44,770	1,070	92	△2	976	45,746	4.7
	8 言語	13,964	275	2	0	273	14,237	1.5
	9 文学	63,659	1,839	0	0	1,839	65,498	6.7
	小 計	602,680	12,269	1,211	△75	10,983	613,663	62.9
児童資料	児童日本語(研究)	105,382	3,724	4	0	3,720	109,102	11.2
	児童日本語(貸出)	21,072	3,962	25	68	4,005	25,077	2.6
	児童外国語(研究)	1,212	8	0	0	8	1,220	0.1
	児童外国語(貸出)	90	0	0	0	0	90	0.0
	小 計	127,756	7,694	29	68	7,733	135,489	13.9
K 旧分類資料		40,677	1	0	0	1	40,678	4.2
S 地域資料		161,525	4,568	14	7	4,561	166,086	17.0
G 外国語資料		12,787	134	0	0	134	12,921	1.3
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0
	久能文庫	2,455	0	0	0	0	2,455	0.3
合 計		951,691	24,666	1,254	0	23,412	975,103	100

※比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	その他	合計
一般資料	11,337	760	0	75	97	0	12,269
児童資料	7,639	0	0	55	0	0	7,694
地域資料	853	2,242	379	921	0	173	4,568
外国語資料	95	39	0	0	0	0	134
K分類資料	0	1	0	0	0	0	1
合計	19,924	3,042	379	1,051	97	173	24,666

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※地域資料のその他についてはp41を参照

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区 分		令和5年度末 所 蔵 数	令和6年度受入数							令和6年度末 所 蔵 数
			購入	寄贈	分類換	区分換	払出	類換	合計	
視聴覚資料		4,509	119	12	2	8	0	0	141	4,650
内 訳	ビデオテープ	1,816	0	0	0	0	0	0	0	1,816
	DVD	2,297	110	12	0	8	0	0	130	2,427
	朗読CD等	396	9	0	0	0	0	0	9	405
	カセットテープ	0	0	0	2	0	0	0	2	2
電子資料		1,941	23	4	18	0	0	0	45	1,986
内 訳	一般	180	0	0	0	0	0	0	0	180
	児童資料	53	0	4	0	0	0	0	4	57
	新聞雑誌	632	23	0	0	0	0	0	23	655
	地域資料	741	0	0	0	0	0	0	0	741
	貴重資料	335	0	0	18	0	0	0	18	353
小計		6,450	142	16	20	8	0	0	186	6,636
マイクロフィルム		10,914	328	17	20	0	166	0	199	11,113
内 訳	新聞雑誌	7,238	328	17	0	0	166	0	179	7,417
	貴重資料・地域資料等	3,676	0	0	20	0	0	0	20	3,696
合計		17,364	470	33	40	8	166	0	385	17,749

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※マイクロフィルム（地域資料） マイクロフィッシュ1点を含む。

〈除籍数の内訳〉

(単位：点)

区 分	内 訳	点 数
一般資料	所在不明資料	26
	汚破損資料	10
	複本資料	1, 150
	紛失資料	1
	長期未返却資料	24
児童資料	汚破損資料	23
	複本資料	1
	所在不明資料	5
地域資料	複本資料	9
	汚破損資料	1
	館長が除籍対象と認める資料	1
	長期未返却資料	1
	所在不明資料	2
マイクロフィルム	汚破損マイクロフィルム	166
合 計		1, 420

(3) 逐次刊行物（新聞・雑誌）

(単位：タイトル)

総タイトル数			左記のうち令和6年度継続受入タイトル数								
			購入			寄贈			合計		
雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
9, 930	53	9, 983	554	23	577	1, 138	18	1, 156	1, 692	41	1, 733

※内訳はp34 参照。

(4) 電子書籍

(単位：点)

分類	令和6年度末 電子書籍数
0 総記	248
1 哲学	233
2 歴史	265
3 社会科学	680
4 自然科学	320
5 技術	306
6 産業	156
7 芸術	227
8 言語	348
9 文学	68
未分類	74
合 計	2, 925

4 図書班

(1) 図書資料の充実

県立図書館として必要な資料の選定は全職員で定期的に行い、速やかに発注し、受け入れた。

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課の職員を0類、1・2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。令和6年度の一般資料受入冊数は12,269冊で、購入資料の平均単価は約4,240円（前年度は約4,423円）であった。受入冊数は前年度より1,974冊増加した。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、子どもコーナー「どんぐりひろば」配架用の本や貸出用大型絵本などの複本を3,962冊受け入れた。児童資料の受入冊数は7,694冊（日本語 7,686冊）で、購入資料の平均単価は、1,977円であった。

新館用資料として、令和5年度から児童資料を、令和6年度からティーンズ向け資料を購入し始めた。

児童資料は令和5年度6,472冊、令和6年度は3,685冊、ティーンズ向け資料は958冊購入した。

(2) 視聴覚資料の充実

視聴覚資料は111点を受け入れた。購入資料は、継続的に収集しているシリーズの追加や自然科学や芸術関係のDVDや朗読CDなどの資料を受け入れた。

(3) 図書館利用状況

ア 入館者数

令和6年度の入館者数は、155,892人で、前年度（152,009人）と比較して3,900人弱増加した。

イ 登録者数

令和6年度の新規登録者数は2,586人であった。前年度（4,565人）と比較して大きく減少したが、電子申請での団体利用者登録が半減したものによる。

ウ 貸出状況

令和6年度の個人利用者への貸出点数は、p21の表のとおりである。

貸出状況は、前年度と比較して、人数では479人、点数では2,212点減少した。

(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

ア 予約・リクエストの状況

予約点数は20,291点（前年度20,321点）で、そのうちWeb予約は19,978点（前年度19,955点）と全体の9割以上を占めている。

令和6年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入	
			市町立	個人
図書・雑誌	20,191冊（19,883冊）	220冊	188冊	107冊
視 聴 覚	100点（95点）	0点	0点	0点
合計	20,291冊／点（19,978冊／点）	220冊	295冊／0点	

※予約の（ ）内は、Web予約の数

イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、5,728冊（前年度6,058冊）と減少した。県外図書館への貸出は、230件332冊（前年度218件310冊）と前年並み、公共機関等貸出については4件82冊（前年度0件0冊）であった。

県内外の図書館からの借受は、208件220冊（前年度293件332冊）と減少、うち国立国会図書館からの借受は2件2冊（前年度7件7冊）であった。

令和5年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国 立 国 会 図 書 館	—	2件／2冊
県 外 図 書 館	230件／332冊	65件／77冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 5,728冊・点 図書・雑誌 5,721冊 視聴覚資料 7点	141件／141冊
県 内 公 共 機 関 等	4件／82冊	—

(5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点収集（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）を行っている。子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室、平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

令和2年度からはグランシップ「えほんのひろば」移転に伴う、本館子どもコーナー「どんぐりひろば」開室のため、子ども図書研究室に配架していた貸出用資料を子どもコーナーに移動した。そのため平成26年から行っていた子どもへの開放は中止し、令和2年10月からの毎週日曜12時30分から16時に職員が在室し、大人への開室を行った。

令和4年度からは、土日祝日を含むすべての図書館開館日の14時から17時まで職員が在室し、開室している。

ア 収集状況

児童書蔵書数 135,491冊（令和7年3月31日現在）

イ 利用状況

令和4年度から14時から17時まで職員が在室する開室日を増やしたが、令和6年度は利用者が減少した。

年度	開室日数	入室者総数
令和5年度	307日	998人
令和6年度	304日	878人

ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。

※個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

エ 子ども図書研究室講演会

子どもと本を結びつける活動をしている人を支援するため、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員、ボランティア等から一般県民（中学生を除く15歳以上）までを対象とした講演会を、年1回実施している。

令和6年度は、翻訳家の三辺律子氏を講師に迎え、「日本の読者に届けたい翻訳文学」と題し、主に英米のYA文学について、その歴史や注目のテーマ、作品についてご講演いただいた。後日申込者限定の動画配信を行った。

日 時	6月30日（日） 13：00～15：00
会 場	静岡県立中央図書館 講堂
講 師	三辺律子 氏（翻訳家）
参加人数	67人
動画配信	静岡県立中央図書館公式YouTubeチャンネル（申込者限定）
配信期間	7月30日（火）から9月6日（金）
再生回数	105 回

オ 新刊児童図書巡回展示研修会

『静岡県子ども読書活動推進計画（第三次計画）』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館を支援、児童資料の充実及び選書に携わる職員の資質向上を図るための研修会を実施している。当館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、当館職員による新刊児童図書紹介を行い、参加者からの資料相談にも応じた。

日 時	9月19日（木） 13：00～15：00
会 場	沼津市立図書館
講 師	資料課職員
参加人数	18 人

カ 新刊児童図書巡回貸出事業（試行）

子ども図書研究室で全点購入している新刊児童図書をより広く有効活用するとともに、県内市町立図書館及び学校図書館職員のレベルアップ、県全体の児童サービスの向上を目指す目的で行った。1回300冊程度の資料を協力館に貸出し、貸出期間で近隣の図書館及び学校図書館職員が児童資料を閲覧、選書等に役立ててもらふ。令和6年度は1館（袋井市立袋井図書館）で1回行った。試行期間後、報告書を作成、県内図書館へ実施について聞き取り調査を行った。

期 間	7月10日（水）～7月31日（水）
協 力 館	袋井市立袋井図書館
貸出資料	概ね2024年1月～3月に出版された児童図書324冊
利用者数	70人

キ 子ども図書研究室だより発行 No.107（R 6.10）

配布先：県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関（三ケ日青年の家等）、図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

ク テーマ絵本貸出

平成23年7月より「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とした、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対するテーマ別絵本の貸出しを実施している。1セット20冊とし、各セットの絵本は重複しないよう配慮している。イベント等での展示や貸出しなど、実際に子どもが手にとって利用することを想定したテーマ設定を行っており、具体的なテーマは「読み継がれてきた絵本」「食べもの」「お菓子」「日本の昔話」「世界の昔話」「グリム」「犬」「猫」「ねずみ」「くま」「虫」「夜」「月」「友だち」「兄弟姉妹」「誕生日」「山」「遊び」「おえかき」「音楽」「服」「字のない絵本」と現在22セットある。

令和6年度は2件、5セット（100冊）を貸し出した。

ケ 視察・見学等

令和6年度は視察・見学はなかった。

コ 講師派遣事業

県内各市町立図書館及び学校図書館等における児童図書資料に関わる研修に、県立中央図書館の児童サービス担当職員を講師として派遣する事業を平成30年度から試行的に開始し、令和元年に本格実施した。

令和6年度実績 3団体 48人受講

	団体名	実施日	人数	内容
1	磐田市立図書館職員	8月23日(金)	19	読み聞かせ入門
2	裾野市立鈴木図書館・裾野市市民文化センター図書室職員	9月26日(木)	14	読み聞かせ入門
3	図書館読み聞かせボランティア(伊豆の国市立図書館)	1月21日(火)	15	小学校高学年から中学生への読書案内

サ 新刊児童図書紹介(旧新刊サロン)

子どもの読書活動関係者に情報交換や交流の場を提供するため、職員が新刊児童図書の紹介を行い、参加者が自由に語り合う会を、平成24年度から偶数月第3水曜日(12月のみ土曜日)の午前中に開催している。

令和6年度は、前年度に引き続き、集合形式と動画配信の両方を実施した。令和6年度から「新刊児童図書紹介」と名称を変更し、開催回数を8月と2月の2回とした。

動画配信は「知識の本」「読み物」「絵本」の3本に分けて作成した。集合形式は、実際に手に取って内容を確認できる、詳しく話を聞くことができる等の点で好評を得た。一方、動画配信は、当館までの距離や時間の都合で参加できなかった方も参加できる、繰り返し見られる等の点で好評を得た。

回次	1	2	合計
実施日	8/4	2/26	
参加者	15人	8人	23人
配信期間	8/14~10/4	3/14~4/30	合計
再生回数	480回	286回	766回

シ 団体利用

「子ども図書研究室」を、全点収集資料を利用した選書会等の会場として、県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体に、予約制で提供している。

利用団体数	6団体
利用人数(延べ)	106人

ス 選定図書リストの公開

平成29年度から、子ども図書研究室の全点収集児童書のうち、子どもと本をつなぐ活動をしている方々の選書の参考になるよう、職員が選定した図書リストをWebサイトで公開している。

令和6年度は12回230冊を選定図書として公開した。

セ 展示一覧

子ども図書研究室内に2つのスペースを設け、展示を行っている。季節の展示コーナーでは、県内市町立図書館及び学校図書館の展示に参考になるよう、少し先の季節の本を展示している。テーマ展示コーナーでは、子ども図書研究室講演会や静岡県図書館大会関連資料、課題図書等の他、その年に周年を迎える作家や作品に関連する展示を実施している。その他、著名な絵本作家等が亡くなられた際には、随時、追悼展示を行っている。

	季節の展示	テーマ展示	その他
4月	ツバメの本	令和6年度国語教科書掲載図書	さとうわきこさん追悼展示
5月		三辺律子さんが翻訳した本（講演会関連資料）	
6月			
7月	戦争の本	2024 夏の課題図書等	
8月	実りの本		
9月			
10月	新しいクリスマスとお正月の絵本	小風さちさんの本（静岡県図書館大会関連資料） 第 36 回読書感想画中央コンクール	中川李枝子さん追悼展示／せなけいこさん追悼展示
11月			
12月			
1月	花の本		いわむらかずおさん追悼展示／長崎夏海さん追悼展示
2月			
3月	カエルの本	こどもの本に関する図書	

ソ その他

- ・静岡県私立幼稚園初任者研修 講師
- ・静岡県公立幼稚園等初任者研修 講師
- ・静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校「読み聞かせ講座」講師
- ・浜松学院高等学校子ども教育コース 授業 講師

(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」

子どもコーナー「どんぐりひろば」は、本館2階に位置し、一般児童書約3,000冊（読み物約2,000冊、知識の本約1,000冊）絵本約6,000冊を配架している。児童に対する直接サービス以外にも県立中央図書館移転までの新館における児童サービスの事前準備・調査・研究を行う。

おはなしかいひは、令和5年度から「どんぐりひろば」内のカーペットで実施している。

ア 利用状況

年度	開室 日数	入室者 総数	新規 登録者数	貸出 人数	貸出数			
					図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚 (点)	合計
令和5年度	307	8,569	197	2,225	15,867	59	3	15,929
令和6年度	304	8,619	156	1,980	14,241	119	2	14,362

※「どんぐりひろば」の利用状況は本館利用状況に含まれる

イ おはなしかい活動実績（令和6年4月～令和7年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10：30～	44	449人	10.2人	職員が実施
毎週木曜日10：30～	34	161人	4.7人	4つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15：30～	46	64人	1.4人	職員が実施
第1及び第3日曜日 10：30～	17	110人	6.5人	2つのボランティアグループが交代で実施
その他 (7/6、8/17、10/12、 12/14、2/15)	5	89人	17.8人	<おはなしかいスペシャル> ボランティアグループが不定期で実施（絵本の読み聞かせの他、歌や芝居なども含む）。

ウ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの本／さとうわきこさん追悼展示	はるのえほん
5月	のりものの本	おかあさんのえほん
6月	海の本／三辺律子さんが翻訳した本（講演会関連資料） 世界の昔話	おとうさんのえほん
		あめのえほん
7月		たなばたのえほん
		なつのえほん
8月		おつきさまのえほん
9月	おじいさん・おばあさんの本	よるのえほん
10月	ハロウィンの本／中川李枝子さん追悼展示 ／せなけいこさん追悼展示	
11月	食べものの絵本	あきのえほん
12月	日本の昔話	クリスマスのえほん
	へびと十二支の本	おしょうがつのえほん
1月	鬼と豆の本	ふゆのえほん
2月	木の本／いわむらかずおさん追悼展示	
3月	花の本	はるのえほん

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

令和6年度の視聴覚資料の受入数はなかった。

現物確認をしたところ、点数が異なっていたため令和5年度末の所蔵数を正した。令和6年度末、閲覧不能資料14点と所在不明資料1点を除籍した。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	令和5年度末 所 蔵 数	令和6年度受入数			令和6年度 除籍数	令和6年度末 所 蔵 数
		購 入	寄 贈	合 計		
16ミリフィルム	1,447	0	0	0	11	1,436
ビデオテープ	3,332	0	0	0	4	3,328
D V D	72	0	0	0	0	72
そ の 他※	295	0	0	0	0	295
合 計	5,146	0	0	0	15	5,131

※その他（スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等）

イ 貸出数

(単位：点)

	社会教育関係	学校教育関係	合 計
16ミリフィルム	23	12	35
ビデオテープ	0	0	0
D V D	0	0	0
そ の 他	0	0	0
合 計	23	12	35

(8) 展示他

特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施工事、時事等にあわせて展示をした。

展 示 期 間	テ ー マ ・ 時 事
令和6年3月30日～4月29日	サンジョルディの日
5月1日～6月2日	テオ・ヤンセン
6月3日～6月30日	R6 教科書展示（調査課地域調査班）
7月2日～7月30日	1年の真ん中で地球の暑さを考える
8月1日～8月29日	オリンピック・パラリンピック・パリ
8月31日～9月29日	麗しき西洋絵画
10月1日～10月30日	英語多読
11月1日～11月28日	ワイン～ボジョレーヌーボー解禁～
11月19日～12月1日	追悼展示：谷川俊太郎
11月30日～令和7年1月14日	薦屋重三郎
令和7年2月1日～2月27日	山梨県立図書館連携展示 「富士山の信仰と芸術」（企画振興課企画班）
2月1日～2月27日	インドを旅する
3月1日～3月30日	花鳥画の世界
3月5日～3月30日	追悼展示：曾野綾子

(9) 資料データ整備

浙江省交換資料のうち平成10年から11年に受け入れた資料について、目録があるのみで書誌がなかった。令和5年度静岡県立大学グローバル地域センターの横井香織特任准教授より浙江省文庫の書誌作成について協力の申し出があった。令和5年度から書誌データ作成のため作業を依頼している。

5 新聞雑誌班

(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル9,983タイトルで、内1,733タイトル（購入577、寄贈1,156）を継続して収集し、保存している。そのうち、新聞は53タイトル（内41タイトル継続）である。

寄贈雑誌は31タイトルを新規に受け入れた。地域雑誌は、静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルを積極的に受け入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞（静岡版及び県内版替分）、中日新聞（東海本社版）、朝日新聞（静岡版）、毎日新聞（静岡版）、読売新聞（静岡版）、日本経済新聞（地方版）を継続受入した。

歴史文化情報センターの本館移転に伴い、所蔵資料の重複が見られたため、一部新聞の状態を確認し当館所蔵の「静岡民友新聞」の差し替えを行った。

（単位：タイトル）

分類	総タイトル数			左記のうち令和6年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,498	32	2,530	70	17	87	202	11	213	272	28	300
1 哲学	157	0	157	13	0	13	26	0	26	39	0	39
2 歴史	598	2	600	29	0	29	111	2	113	140	2	142
3 社会科学	2,599	11	2,610	145	2	147	327	3	330	472	5	477
4 自然科学	573	0	573	59	0	59	106	0	106	165	0	165
5 技術	1,101	4	1,105	101	1	102	106	2	108	207	3	210
6 産業	1,051	3	1,054	27	3	30	77	0	77	104	3	107
7 芸術	418	1	419	54	0	54	73	0	73	127	0	127
8 語学	80	0	80	9	0	9	8	0	8	17	0	17
9 文学	855	0	855	47	0	47	102	0	102	149	0	149
計	9,930	53	9,983	554	23	577	1,138	18	1,156	1,692	41	1,733

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

(2) 提供情報の充実

ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしており、利用者端末や当館Webサイトからキーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できる。

イ 特集展示

雑誌の特集展示は、定期的に閲覧室の雑誌コーナー及び総合案内カウンター前で行い、利用者の興味関心が高まるような展示に努めている。

展示テーマは次のとおりであり、雑誌コーナーでは、季節や社会情勢に関連したテーマ展示を、総合案内カウンター前では、新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等を紹介している。

	雑誌コーナー	総合案内カウンター前
3・4月	地図を旅する	雑誌『あんふあん 静岡版』
5・6月	平成（1989-2019）	雑誌『彰往考来』
7・8月	芥川賞	雑誌『IZUCCO・うらっち』
9・10月	美味しく食べる	雑誌『「道の駅」旅案内 中部版』
11・12月	むし・虫・昆虫	雑誌『The Hobby Journal』
1・2月	本を読む	雑誌『むすびめ2000』
3・4月	芸術を楽しむ	雑誌『全国バンド図鑑』

ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進し、利便性を高めるために、現在は25タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている（総タイトル数45）。目次を入力した地域雑誌はそれぞれの巻号の目次一覧を見ることができ、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されていることから、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入力に努める。

エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からWeb公開を始めた「静岡県内新聞雑誌総合目録」には、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報が掲載されている。県内で初めて所蔵する雑誌については書誌データを当館で入力し、そのデータを基に、県内各市町立図書館（室）が自館の所蔵情報を更新する。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、令和6年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修をYouTubeによるWeb配信で行った。

当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているため、検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるため、検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待している。

(3) その他

特別整理休館時に、劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理やシリカゲルの交換作業を行い、資料の適切な保管に努めている。

使用していたマイクロフィルムリーダーMicroSP7000MKⅡの部品供給が終了したため、令和6年5月から新機種LegendScannerLS5100Rに機種変更した。

新館整備に向けた雑誌所蔵資料データ公開体制構築のため、業者委託に先行して、令和6年度から設置したワークステーション（障害者雇用）を活用しバーコード貼付業務を開始した。

書庫狭隘化の解消のため、書庫10にあった大学紀要等の資料を外部保管とした。

6 一般調査班

(1) レファレンスサービス

ア 令和6年度レファレンスサービスの概要

令和6年度のレファレンス総件数は4,697件で、令和5年度から減少した。

質問形式別の件数を見ると、特に来館による質問が減少しており、令和5年度と比べて772件減少した。令和5年度は、コロナによる外出・移動制限が解除されたこともあり、来館による質問が大幅に増加したが、その状況が落ち着いたものと思われる。

調査種別では、所蔵・所在調査が2,500件、書誌・文献・事実調査は2,197件だった。所蔵・所在調査の件数が令和5年度から大幅に減少したが、これも来館による質問の減少に起因するものと考えられる。

書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の36.5%であり、分類別では、多い順に7類（芸術・スポーツ）、2類（歴史・人物・地理）、3類（社会科学）、0類（叢書・新聞）となり、これらで全体の約8割を占めた。

インターネットやAI等の普及により、自分で調査できる範囲が拡大した一方、偽・誤情報やフィルターバブル（好みに合った情報ばかり表示されること）といった問題も生じており、典拠を示して回答する図書館のレファレンスサービスの意義は増しているともいえる。県立図書館としてその役割に応えられるよう、レファレンススキルの維持・向上に努めながら、レファレンスサービスの認知度向上に取り組みたい。

令和6年度レファレンス件数

(単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	2,197	うち静岡県に関するもの	801
②所蔵・所在調査件数	2,500	うち静岡県に関するもの	655
合 計	4,697	うち静岡県に関するもの	1,456

イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分でも調べられる、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題した「テーマ別調べ方案内」を作成している。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるよう閲覧室内に配置しているほか、当館Webサイトでも「パスファインダー一覧」としてPDFで公開している。令和6年度は一部内容を見直し、改訂を行った。

ウ オンラインデータベースの充実

(ア) 導入オンラインデータベース

ジャパンナレッジLib、第一法規法情報総合データベース、TKCローライブラリー、朝日新聞クロスサーチ、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、毎索、中日新聞・東京新聞記事データベース、医中誌Web、ヨミドクター、ルーラル電子図書館、官報情報検索サービス、ざっさくプラス、JDreamⅢ、レファコレ(人物レファレンス事典plus)の15種類のデータベースを導入している。

(イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	6/4	5	6	7	8	9	10	11	12	7/1	2	3	計
ログイン数	192	177	173	153	107	143	159	163	151	130	87	107	1,742
検索件数	3,942	5,814	8,344	2,085	9,726	11,376	5,771	4,386	5,755	3,910	10,337	7,531	78,977

※ログイン数は、第一法規法情報総合データベース、朝日新聞クロスサーチ、毎索、医中誌Web、ジャパンナレッジLib、TKCローライブラリー、JDreamⅢ、レファコレのもの。

※検索件数は、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、中日・東京新聞記事データベース、ルーラル電子図書館、ざっさくプラスのもの。

(ウ) オンラインデータベース活用講座の実施

令和6年度は一般社団法人農山漁村文化協会関東甲信越支部の横山宗和氏を講師に招き、「ルーラル電子図書館」の活用方法の講座を行った。

実施日	内容	受講者数
10月12日（土）	「ルーラル電子図書館で調べよう！暮らしに役立つ農家の知恵」	10人

(2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修（レファレンス基礎研修）と専門研修（レファレンス応用研修）を一般調査班が担当した。

基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「レファレンス概論」、「基礎的な参考図書の紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義と演習を行った。会場は、中部は当館、西部は静岡県総合教育センター、東部は三島市立図書館で、参加申込みの多かった中部を2グループに分け2回行ったため、計4回実施した。

応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修であり、「統計情報の探し方」と「インターネットで調べる（応用）」の2つを行った。「インターネットで調べる（応用）」はテキストを新たに作成し、初めて実施した。

レファレンス基礎研修 実施状況

実施日	地区	受講者人数	実施日	地区	受講者数
5月17日（金）	中部	18人	5月22日（水）	中部	22人
5月30日（木）	西部	30人	6月5日（水）	東部	14人

レファレンス応用研修 実施状況

実施日	会場	受講者数
10月16日（水）	静岡県立中央図書館	39人

イ 教職員対象の研修の実施

静岡県総合教育センター主催で行われた「探究的な学習を支える学校図書館活用研修」に一般調査班員が講師として参加し、「データベースを利用した情報収集」の内容を担当した。参加者は主に高等学校の教員であったが、小中学校や特別支援学校の教員の参加もあった。講義ではインターネット上のデータベースを利用した資料の探し方について説明を行った。

実施日	内容等	受講者数
11月15日（金）	探究的な学習を支える学校図書館活用研修 会場：静岡県総合教育センター	16人

ウ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成22年度以降、県内市町立図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査班員を講師として派遣し基礎的な内容の講義や演習を行う「レファ

レンス等出前研修」を企画・実施している。

テーマは、「レファレンス概論（インタビュー演習等を含む）」「参考図書で調べる」「資料をインターネットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つを設定し、自由に選択できるようにしている。

令和6年度の総受講者数は126人だった。

出前研修実施状況

実施日	会場	延べ受講者数	実施日	会場	延べ受講者数
12月5日（木）	長泉町民図書館	8人	1月20日（月）	御殿場市立図書館	18人
1月23日（木）	浜松市立都田図書館	46人	2月5日（水）	沼津市立図書館	35人
2月6日（木）	藤枝市立駅南図書館	19人			

(3) 特別取扱資料等の保存と公開

ア 特別取扱資料

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理している。また、害虫対策として、令和6年度は12月16日の図書館休館日に、ブンガノンとライセントを使用して収蔵庫と貴重書庫の薰蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、職員の目視により平成23年度から計画的に修復及び保存作業を進めてきたが、デジタル化されている葵文庫・久能文庫資料について、令和2年度に専門業者による資料の破損や汚損状況の調査を行い、この調査結果をもとに、破損・汚損状況の激しい資料から順次、修復・整備し、引き続き貴重な資料の保存と公開の両立を図っていくこととした。今年度は『群書治要』47冊の修復を行った。また、令和4年度に策定した中性紙保存箱への入替計画に基づき、令和6年度は葵文庫の一部と久能文庫の前半分の入替作業を行った。

イ 貴重書の閲覧・利用状況

令和6年度は、延べ28人が計203点を閲覧した。状態の悪い資料については利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っている。

ウ 貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化

資料の保存と公開の両立のため、貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化を計画的に進め、デジタルライブラリーでの画像公開を行っている。

令和6年度は一般貴重資料の新規のマイクロフィルム化・デジタル化は実施しなかったが、昨年度再撮影した絵図・地図のデータと、現在デジタルアーカイブで公開されているデータとの入替作業を行った。

エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等

令和6年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が66件あり、前年度の80件より14件減少した。その内訳は掲載52件（前年度74件）、放映14件（同6件）であった。

また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は45件（前年度52件）であった。浮世絵（『上村翁旧蔵浮世絵集』）、郷土関係資料（『九十五年前の伊豆（天保三年）』など）の申込みが例年どおり多かったが、その他では駿府の町政関連資料（『万留帳』など）の申込みが多かった。

なお、展示等による館外貸出については次の5件（52点）を許可した。

施設	催事名等	資料名
静岡市歴史博物館	「今川義元」	『浅間大宮司富士家文書6』他 全7点
静岡市東海道広重美術館	「出張！日本平動物園 帰ってきた うきよえどうぶつ館」	『上村翁旧蔵浮世絵集』 全33点
焼津市歴史民俗資料館	しずおか遺産認定記念特別展「今川 文と武の源流」第一部「長谷川一族が見つめた今川の盛衰」	『駿国雑志』 全1点
静岡市歴史博物館	「江戸から明治へ～静岡の明治維新～」	『Volledige verhandeling over de stoomwerktuigen』他 全7点
安城市歴史博物館	「地震と災難―宝永地震から三河地震まで―」	『御触書帳』他 全4点

オ 貴重書常設展示

当館の貴重資料の周知と活用を図るため、平成23年1月から貴重書常設展示コーナー『しずおか』の貴重書で展示を行っている。今年度も、ブラウジング入口付近の展示ケースで毎回3点前後の資料を展示するとともに、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルを作成し、展示資料に添えた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書の展示・配架も行った。このコーナーは地域調査班と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下のとおりである。

実施日	企画名	展示品
令和6年 3月1日 ～ 4月29日	採撰亭版	『稲川詩草』『駿河府志』『西河折妄』他
5月1日 ～ 5月30日	新茶の季節	『茶業必要』『茶業改良法』『皇国製茶図会』
6月1日 ～ 6月27日	明治の静岡の教科書	『日本地誌略』『小学読本』『静岡県誌』
6月29日 ～ 8月29日	芳年の武者絵	浮世絵『大日本名将鑑』『芳年武者無類』
8月31日 ～ 9月29日	安政の東海地震	『地震出火二付町方へ御救済被下引続施米一件日記』他
10月1日 ～ 11月2日	万留帳	『万留帳』『七間町三丁目絵図』
11月2日 ～ 11月28日	江戸の医学書	『医療正始』『医方正伝』『全体新論』
11月30日 ～ 令和7年 1月14日	貴重書に見る日露関係	『仏露辞書』『遭厄日本紀事』『精校海国兵談』
2月1日 ～ 2月27日	山岡鉄舟と静岡	『山岡鉄舟手記』『静岡御役人附』他
3月1日 ～ 4月29日	静岡県立葵文庫	『静岡県立葵文庫記念写真帖』『芳名録』他

カ 貴重書講座・見学

(7) 貴重書講座

演題 『万留帳』の世界 ～駿府町人の営みが記録された第一級資料～

講師 青木 祐一 氏（葵文庫の会（※）会員、静岡市歴史博物館学芸員）

実施日 令和6年11月2日（土） 参加者 70人

当館所蔵の「静岡市史編さん資料」には、近世の駿府町方を研究する上で貴重な資料が数多く含まれている。本講座では、「静岡市史編さん資料」の中から、駿府町役人である年行事が書き留めた町政記録『万留帳』を取り上げ、『万留帳』が書かれた理由や駿府町人の文書の保存・利用状況などを、資料の記述を挙げながらわかりやすく説明していただいた。参加者からは「貴重な資料の存在や意義を知ることができて、充実した時間が持てた」「『万留帳』から町人の努力や歴史を知ることができた」「大変貴重な資料が静岡市にあることを、もっと幅広い年齢層に知ってもらいたいと思った」等の感想があり、文化的な講座を求めた県民へのアピールができた。図書館資料と利用者をつなぐという意味でも有意義な講座となった。

(p70～p73に講演内容の特集)

(※)「葵文庫の会」：元県立中央図書館職員を中心とする当館の貴重資料を調査、研究している団体。

(イ) 貴重書紹介講座（図書館見学）

随時実施する図書館見学での貴重書紹介は、葵文庫・久能文庫等の展示と解説を行い、資料を間近で見ることによって、将来を担う学生・生徒等に見聞を広めてもらうことを目的としている。

令和6年度は中学生・高校生の職場体験時と国立国会図書館職員との意見交換時に貴重書の紹介を行った。

(4) 障害者サービス

サービスの提供については、今年度は新たに3人の障害者利用登録と2人のサピエ図書館登録、9件17冊の郵送貸出サービスの利用があった。資料・環境の整備については、新館用として大活字本1,014冊を購入した。

(5) その他の関連事業

ア 視覚障害サポート・ボランティア養成講座

静岡県視覚障害者情報支援センターが主催する視覚障害サポート・ボランティア養成講座のプログラムの1つとして「調査実習」を一般調査班で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は新たに音訳・点訳ボランティアとしての活動を希望される方々で、それぞれ真剣に取り組んでいた。実施日、受講者数は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
11月12日（火）	静岡県立中央図書館	8人

イ 関係機関との連携など

「葵文庫の会」会員との連絡会を令和6年11月2日（土）に実施した。図書館からは、貴重資料の利用状況、デジタル化の現状、貴重資料の常設展示等について報告した。その後、来年度の貴重書講座の予定及び講師依頼等について協議し、貴重資料等についての情報交換を行った。

ウ 郵送複写サービス

当館では、来館が難しい県民に対し所蔵資料の郵送複写サービスを行っており、県外の利用者からの申込みは、当館のみが所蔵する資料及び静岡県に関する資料（地域資料）に限り受け付けている。令和6年度は、年間の依頼申込みは81件881枚（内マイクロフィルムは10件29枚）であった。

7 地域調査班

(1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に關係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。令和6年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問合せや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れのないよう努めている。収集部数は、1資料につき2部を原則とし、1部を貸出閲覧用、1部を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	令和5年度末 蔵書数	令和6年度受入冊数（増減数）							令和6年度末 蔵書数	
		購入	寄贈	分類換	区分換 ・管理換 ・その他	類換	除籍 数	計	蔵書数	比率 (%)
0 総記	15,705	173	215	61	64	8	1	520	16,225	9.8
1 哲学	1,832	24	22	0	42	0	1	87	1,919	1.2
2 歴史	31,302	170	467	12	483	0	3	1,129	32,431	19.5
3 社会科学	52,343	111	714	135	305	△5	2	1,258	53,601	32.3
4 自然科学	7,622	28	145	19	15	0	1	206	7,828	4.7
5 技術	11,332	38	173	35	39	2	3	284	11,616	7.0
6 産業	16,172	69	177	106	59	1	1	411	16,583	10.0
7 芸術	9,184	69	182	11	74	△1	2	333	9,517	5.7
8 言語	539	2	14	0	9	2	0	27	566	0.3
9 文学	15,494	169	133	0	4	0	0	306	15,800	9.5
合計	161,525	853	2,242	379	1,094	7	14	4,561	166,086	100.0

※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがある。

※令和6年度受入冊数のうち「その他」173点は、合綴書を解体して新たに蔵書システムに登録する必要が生じた地域資料48点と、これまで購入時にまとめて蔵書システムに登録してきた『静岡県関係地形図』のうち125点を計上した。

(2) 提供情報の充実

ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の約3割が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、過去に作成した書誌には目次データが未入力となっているものがあるため、遡及入力も継続的に行っている。

イ 二次資料の作成

当館所蔵の地域資料のうち、小・中学生の地域学習に活用できる資料をまとめた『地域学習に役立つ図書リスト』について、令和6年8月付けで改訂・発行し、各市町立図書館及び県内小・中学校等に周知を行った。

また、例年改訂している『静岡県内住宅地図目録』についても改訂・発行を行った。

(3) 資料展示

ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、「6 一般調査班」における「(3) 特別取扱資料等の保存と公開」の「オ 貴重書常設展示」(p39)の項目を参照。

イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。

また、「地域資料特集展示コーナー もっと知りたい！ふじのくに」では、時事に合わせたテーマだけでなく、書庫にあって気付きにくい資料も紹介するなど、地域資料の周知や利用促進を図っている。

令和6年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容
3月1日 ～ 4月28日	ふじのくにの絵本作家 鈴木 まもる氏 竹下 文子氏 (令和5年度から継続)
5月1日 ～ 6月11日	花めぐりしずおか
6月12日 ～ 7月15日	注目！静岡県内の“本に関する賞”
7月17日 ～ 8月29日	地域のことを調べてみよう
8月31日 ～ 10月6日	東海道新幹線は60周年！
10月8日 ～ 11月28日	ふじのくに 静岡県の文化財
11月30日 ～ 12月26日	ふじのくに芸術祭－障害者文化芸術部門－
1月5日 ～ 2月27日	静岡県が舞台の漫画
3月1日 ～ 4月29日	しずおかの絵本作家 スギヤマカナヨ氏、鈴木のりたけ氏ほか

(4) 市町立図書館への支援

ア 地域資料MARCの提供

県内市町立図書館等における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館Webサイトに公開されるようになっており、各図書館をはじめ、個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため、レファレンス、地域資料の選書などにも活用することができる。

イ 運営相談等

県内市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受入れを行っている。

ウ 研修の実施

公立図書館等職員専門研修（図書館情報研修）及び賀茂地区図書館研究会職員研修において、地域調査班の職員が講師となり、書誌作成に関する研修会を初めて開催した。

(5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点取組事業として積極的に推進している。毎年、近世・近代の地誌や絵葉書などについてデジタル化・マイクロフィルム化を行い、当館デジタルライブラリーで一般公開を行うほか、虫食いや劣化破損等の見られる資料の修繕を行っている。なお、令和6年度は、令和5年度に作成したデジタル化計画を元にデジタル化を進めている。

静岡県及び県内各市町が発行し、Webサイトで公開しているPDFファイルについて、クロージング技術を用いて全収集した。(p53参照)

令和6年度に行った事業は次のとおりである。

事業	内訳	点数	内 訳
デジタル ライブラリー 登録・公開	自館作成分	23タイトル	『静岡県勢要覧 昭和26年』『国勢調査結果報告書 昭和45年』『観光の静岡県』ほか20タイトル
	業務委託分	57タイトル	『駿河国雑誌』『なをりその記』ほか
デジタル化 マイクロフィルム化		39タイトル	『九十五年前の伊豆 絵図帳』『渡辺家文書』10点 ほか37タイトル計80点
修繕		15タイトル	『静岡市史編さん資料133雑』『[駿府呉服町御用留]』他13タイトル24点

(6) 地域貴重資料の保存

令和4年度に策定した新館移転に向けた貴重資料の保存計画を基に、令和6年度は地域貴重資料の保存容器の作成及びドライクリーニングを実施した。

(7) 地域視聴覚資料の媒体変換

令和5年度にDVDへの媒体変換を行った資料について、受入作業を進めた。

(8) 歴史文化情報センター

12 歴史文化情報センター (p64参照)

8 企画班

(1) 図書館職員研修

ア 基礎研修

(7) 図書館基礎研修

期日・会場	4月12日（金）・オンライン（ライブ配信）開催		
参加人数	118人		
内 容	・「図書館職員の基礎知識」 静岡県立中央図書館職員 ・「図書館サービスと著作権 概論」 静岡県立中央図書館 調査課職員 ・県立中央図書館見学（YouTube 動画視聴）		

(イ) おうだんくん基礎研修

期 日	配信期間 4月1日（月）～3月7日（金）		
会 場	YouTube によるオンデマンド開催		
参加人数	総再生回数 218 回		
内 容	・「おうだんくんシステム、ポータル」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員 ・「おうだんくんコミュ」 同 企画振興課企画班職員 ・「静岡県の図書館」 同 企画振興課振興班職員 ・「静岡県新聞雑誌総合目録」 同 資料課新聞雑誌班職員 ・「静岡県地域資料書誌提供システム」 同 調査課地域調査班職員 ・「おうだんくんサーチ」 同 企画振興課企画班職員 ・「相互貸借の基本」 同 企画振興課振興班職員 ・「おうだんくん I L L」 同 資料課図書班職員		

(ウ) レファレンス基礎研修

期 日	5月17日（金）	5月22日（水）	5月30日（木）	6月5日（水）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		静岡県総合教育センター （あすなろ） 情報研修室	三島市立図書館 （生涯学習センター） 研修室・パソコン教室
参加人数	18人	22人	30人	14人
内 容	・「レファレンス概論」 ・「基礎的な参考図書の紹介」 ・問題演習、解説 ・「インターネットで資料を調べる」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員			

イ 専門研修

(7) 図書館情報研修

期日・会場	2月18日（火）・静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	40人		
内 容	・「地域資料の収集、書誌作成からデジタル化まで」 静岡県立中央図書館 調査課地域調査班職員 ・情報交換 ・書誌作成に関する個別相談 ※希望者のみ ・デジタルスキニングの実演・試行 ※希望者のみ		

(イ) 大学・専門図書館研修

期日・会場	9月6日（金）・静岡社会健康医学大学院大学 大教室・視聴覚室
参加人数	30人
内 容	・会場図書館見学 ・「大学図書館職員の新たな役割」 ・情報交換 千葉大学副学長・附属図書館長 竹内 比呂也 氏

(ウ) レファレンス応用研修

期日・会場	10月16日（水）・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	39人
内 容	・「統計情報の探し方」 ・「インターネットで調べる（応用）」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員

(エ) 資料保存研修

期日・会場	6月26日（水）・静岡市立中央図書館 視聴覚ホール
参加人数	午前30人・午後30人
内 容	・「図書修理研修会（単行本）一丸背洋装本の基本修理法」 ・会場図書館見学 ※午前午後同内容を2回実施 キハラ株式会社製本講座講師 川人 拓 氏

(オ) 図書館サービス研修

期日・会場	11月20日（水）・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	71人
内 容	・「除籍選定の手順と考え方」 ・情報交換 日本図書館協会認定司書第2026号 星野 盾 氏

(カ) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	10月29日（火）・オンライン（ライブ配信）開催
参加人数	98人
内 容	・「子どもとデジタル」 東京大学大学院教育学研究科教授 遠藤 利彦 氏

ウ 運営研修

(7) 館長研修会

期日・会場	4月23日（火）・オンライン（ライブ配信）開催
参加人数	57人
内 容	・「図書館経営の評価」 早稲田大学教育・総合科学学術院准教授 田辺 智子 氏

(イ) 図書館運営研修

期日・会場	7月19日（金）・静岡市立南部図書館（地域福祉共生センター）会議室 1
参加人数	26人
内 容	・「図書館と災害」 名取市図書館長 加藤 孔敬 氏 ・静岡市立南部図書館 事例報告・図書館見学 静岡市立南部図書館長 佐藤 由乃 氏 ・情報交換

エ 特別研修

図書館情報交換会

期日・会場	9月27日（金）・清水町立図書館 フレキシブルスペース
参加人数	8人
内 容	・会場館見学 ・情報交換

(2) 利用者からの意見

ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

（単位：件）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提案件数	0	3	2	2	1	0	4	0	0	0	2	1	15
回答・改善件数	0	3	1	2	1	0	1	0	0	0	1	1	10

提案件数は、昨年度から5件増加し15件となった。施設設備・新館移転に関するものが多く、老朽化にともない改善が難しい提案も少なくない。早期回答を心がける一方、サービスに関する提案はなるべく改善に繋げるよう努めた。

イ 利用者実態調査

(7) 調査の概要

当館では、平成9年度から継続的に利用者に対してアンケートを実施し、利用者の来館目的や利用資料等について調査してきた。

令和3年度からは、これまで来館者に対して紙で行っていたアンケートを廃止し、ふじのくに電子申請サービスを利用し、電子申請でアンケートを行っている。集計作業の効率化や、市外利用者（市町受取サービス利用者等）、当館を利用したことがない人等から多く意見を集めることなど、電子申請のメリットを生かしたアンケートを実施することができた。

(イ) 調査期間

11月1日（金）～12月1日（日）31日間

(ロ) 分析結果

【付属資料】「令和6年度『静岡県立中央図書館アンケート』集計結果」（p54-55）

(3) イベント等

ア 図書館講座、講演会等

(7) 図書館講座 葵レク

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
8月4日(日) *オンデマンド配信 8月16日(金)～ 10月4日(金)	新刊児童図書紹介①	当館職員	—	14人	15人 480回
10月12日(土)	オンラインデータベース 活用講座 ルーラル電子図書館で調 べよう!暮らしに役立つ 農家の知恵	横山 宗和 氏 (一般社団法人農 山漁村文化協会関 東甲信越支部)	20人	18人	10人
11月2日(土)	貴重書講座 『万留帳』の世界～駿府町 人の営みが記録された第 一級資料～	青木 祐一 氏 (葵文庫の会会 員、静岡市歴史博 物館学芸員)	70人	65人	70人
11月4日(月・休 日)	城址講座 天守の出現～天守の歴史 と変遷～	加藤 理文 氏 (公益財団法人日 本城郭協会理事)	150人	183人	140人
2月8日(土)	健康医療情報講演会 アイフレイルとは?人生 100年の時代に視力を失 わないために気を付ける こと	高良 俊武 氏 (静岡県眼科医会 会長、高良眼科医 院院長)	50人	55人	43人
2月26日(水) *オンデマンド配信 3月14日(金)～ 4月30日(水)	新刊児童図書紹介②	当館職員	—	7人	8人 286回

(イ) 子ども図書研究室講演会

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
6月30日(日) *オンデマンド配信 7月30日(火)～ 9月6日(金)	日本の読者に届けたい翻 訳文学	三辺 律子 氏 (英米文学翻訳家)	200人	70人	67人 105回

イ 展示

期間	名称	連携機関等	開催場所
3月5日(火) ～4月29日(月・祝日)	JICA海外協力隊写真展	JICA静岡デスク	展示室
3月30日(土) ～4月29日(月・祝日)	さくら写真展	静岡県さくらの会	インフォメーションホール
4月2日(火) ～4月29日(月・祝日)	県史展示	館内企画	総合案内カウンター前

6月4日（火） ～6月27日（木）	南アルプス国立公園指定 60 周年記念写真展・関連展示	環境省南アルプス自然 保護官事務所	インフォメーションホール 閲覧室
6月29日（土） ～7月28日（日）	がん治療に革命を クラファ ンPR	県環境衛生科学研究所	閲覧室
7月17日（水） ～8月29日（木）	草薙神社龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室
7月17日（水） ～8月18日（日）	ユニバーサルデザイン絵本 作品展	静岡文化芸術大学	総合案内カウンター前
8月6日（火） ～8月18日（日）	統計グラフコンクール作品 展	県データ活用推進課	インフォメーションホール
8月20日（火） ～9月29日（日）	海洋プラスチックごみ防止 「6R県民運動」展・関連展示	県廃棄物リサイクル課	インフォメーションホール
10月8日（火） ～11月4日（月・休日）	国鉄清水港線の廃止を考え る－国鉄再建計画の中で消 えた市民の足「赤字ローカル 線」－	県文書課	インフォメーションホール
10月8日（火） ～11月4日（月・休日）	日本の城“天守”写真展	館内企画	閲覧室
11月6日（水） ～12月1日（日）	「犯罪被害者週間」企画展示	県くらし交通安全課	インフォメーションホール
12月3日（火） ～1月14日（火）	ものづくりレガシー展	静岡県立工科短期大学 校	インフォメーションホール
12月4日（水） ～1月14日（火）	静岡書店大賞展	館内企画	総合案内カウンター前
2月1日（土） ～2月27日（木）	静岡県立中央図書館・山梨県 立図書館連携展示「特別名勝 富士山」	山梨県立図書館	総合案内カウンター前
2月1日（土） ～2月27日（木）	インド関連展示	館内企画	閲覧室
2月4日（火） ～3月2日（日）	静岡発！昭和の幼児指導絵 本『あそび』展	平野雅彦元静岡大学客 員教授	展示室
2月4日（火） ～3月2日（日）	防犯グッズ展示	県警生活安全企画課	インフォメーションホール
3月1日（土） ～3月30日（日）	優良図書展示	県社会教育課	総合案内カウンター前

ウ 図書館特別企画

（ア）夏休み子ども図書ウィーク

・開催期間 令和6年7月27日（土）～8月3日（土）

開催日	内容	講師等	募集	応募	参加
7月27日（土）	一緒に学ぼう！グローバ ルマインド講座	静岡県立中央図書館館長	20人	中止	
7月28日（日）	ユニバーサルデザイン絵 本手作り教室	林 左和子 氏 （静岡文化芸術大学）	20人	25人	26人
8月1日（木）	ふじっぴーの親子グラフ 教室	県データ活用推進課	20人	9人	8人

8月2日（金）	親子自然観察教室	小川 滋之 氏 （ふじのくに地球環境史 ミュージアム）	20 人	13 人	14 人
8月3日（土）	ぶんぶんごま・折り紙あそび	上足洗シニアクラブ	15 人	11 人	11 人

(イ) ふじのくに文化の丘フェスタ

・開催期間 令和6年10月15日（火）～11月4日（月・休日）

開催日	内容	講師・連携機関等	備考
10月8日（火） ～11月4日（月・休日）	日本の城“天守”写真展	館内企画	展示
10月8日（火） ～11月4日（月・休日）	国鉄清水港線の廃止を考える－国鉄再建計画の中で消えた市民の足「赤字ローカル線」－	県文書課	展示
11月2日（土）	貴重書講座 『万留帳』の世界～駿府町人の営みが記録された第一級資料～	青木 祐一 氏 （葵文庫の会会員、 静岡市歴史博物館学芸員）	葵レク
11月4日（月・休日）	城址講座 天守の出現～天守の歴史と変遷～	加藤 理文 氏 （公益財団法人日本城郭協会理事）	葵レク
10月15日（火） ～11月4日（月・休日）	文化の丘スタンプラリー（後日抽選）	ムセイオン静岡	応募総数 89 通

(ウ) その他

開催日	内容	概要	募集	応募	参加
2月4日（火）	インド大使館図書贈呈式&ヨガセッション	会場：会議室 インド大使館からの図書の贈呈及びインド大使館ヨガ講師によるヨガセッションの開催	20 人	18 人	16 人
2月24日（月・休日） 閉館後に開催	Library Concert（図書館コンサート） 第二章 アカペラ	会場：閲覧室 演奏及び演奏曲にまつわるエピソード紹介 静岡県立大学アカペラサークル The Vivaledge	50 人	63 人	56 人

(イ) 地元コーヒー店の出店

昨年度、Library Concert 開催日に併せて地元のコーヒー店 Hugcoffee に出店いただいたところ、来館者に好評だったため、令和6年度も城址講座開催日に併せてインフォメーションホールに2度目の出店を行った。

(4) 図書館サポーター

ア 登録状況（過去3年）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
読み聞かせ	23人	24人	22人
館内サービス	2人	1人	1人
環境	1人	2人	2人

イ 活動内容

読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施など。
 館内サービス : 生涯学習等の発表。呈茶や資料紹介ポップ作成等。
 環 境 : 生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。

ウ 活動実績

読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施。
 (活動実績p31-32参照)
 館内サービス : インフォメーションホールにおける呈茶サービスの実施。
 環 境 : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における壁面装飾。

(5) 職場体験学習等

ア 職場体験学習

(7) 図書館主催

校種等	7月23日(火) ～7月24日(水)	8月6日(火) ～8月7日(水)	合計
中学生	10人	10人	20人
高校生	14人	18人	32人
合 計	24人	28人	52人

(4) 個別申込

学校名	期間	人数
静岡市立清水第八中学校	5月14日(火)	3人
静岡県立清水南高等学校中等部	11月13日(水)～11月14日(木)	2人
合 計		5人

イ インターンシップ(大学生)

(7) 図書館主催 受入れなし

(4) 県主催

期間	大学・学部名	人数
8月23日(金)	静岡大学人文社会学部	1人
	南山大学経済学部	1人
	京都女子大学文学部	1人
合 計		3人

ウ 社会体験研修(中堅教諭等資質向上研修(I期))

・実施日 8月8日(木)・9日(金)、県立高等学校教諭2人・県立特別支援学校教諭1人

エ 施設見学・視察

校種等	校数・団体数	人数(引率者含む)
小 学 校	3	90人
大学・短大	2	6人
図書館・県関係者	3	33人
合 計	8	129人

(6) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより（文化の丘）

年2回（9月初旬、2月初旬）発行。当館の事業（サービスや講座など）を広報し、図書館利用の促進を図った。令和7年2月発行分ではムセイオン静岡の連携機関のひとつである静岡県立大学の学生広報大使が誌面作りを1ページ担当し、幅広い世代への広報の促進を図った。

No. 376（令和6年9月）・No. 377（令和7年2月）発行 各2,000部

配布先：県内教育委員会、県内市町立図書館等

イ 当館Webサイトの運用等

一般利用者向けWebサイトや県内図書館向け「おうだんくんシステム」の各種サービスを滞りなく運用・提供した。

ウ 公式X（旧Twitter）の運用

令和2年7月からTwitterによる広報を試行し、同年8月1日から本格運用を開始した。令和6年度末現在、投稿数は1,665回、フォロワー数は1,347アカウントである。

(7) ムセイオン静岡

ア 趣旨

ムセイオン静岡とは、静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県埋蔵文化財センター、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”、静岡県舞台芸術センター（SPAC）及びふじのくに地球環境史ミュージアムの7つの教育文化機関による自主協働プログラム。静岡市の谷田の丘陵地帯及びその周辺地域を、本県の文化振興やまちづくりに貢献する地域に発展させるため、平成21年3月に「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結し、相互に協力して文化を創造し、国内外に発信する活動を展開している。「ムセイオン」は、“Museum”（博物館、美術館）の語源で、「学堂」を意味する。当初は4機関で始まり、平成21年度に2機関、平成28年度に1機関が加わり、現在の7機関となった。

なお、事務局は平成28年度から静岡県立大学が担当していたが、令和4年度から輪番制となった。

イ 令和6年度事業実績

(ア) イベント等

＜共通イベント＞

- ・「ふじのくに文化の丘フェスタ2024」（10月15日～11月4日）

＜連携イベント等＞

- ・8月2日 夏休み子ども図書ウィーク「親子自然観察教室」（会場：当館、講師：ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授）
- ・2月1日発行 静岡県立大学学生広報大使による『文化の丘』誌面作成
- ・2月24日 Library Concert 第二章アカペラ（会場：当館、出演：静岡県立大学アカペラサークル The Vivaledge）

(8) 浙江図書館との友好提携

ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は当館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結ん

できた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや当館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

イ 令和6年度の実績

(7) 上記の友好提携に基づく図書交換

寄贈：30冊及び当館刊行物等、受贈：39冊及び逐次刊行物3タイトル（静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換）

(4) 受贈図書の「浙江省文庫」への配架

(9) 山梨県立図書館との連携協定

ア 趣旨

富士山の文化振興に貢献するため平成27年6月、「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」を締結。両館で所蔵する富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えるとともに、富士山の自然、文化を情報発信している。また、令和3年6月の期間更新に際して、連携及び協力を通じて両館の発展に資することが目的に加えられた。

令和6年6月に3回目の期間更新を行った。

イ 令和6年度事業実績

(7) 連携推進協議会

- ・第1回（6月18日 静岡県立中央図書館）
- ・第2回（2月27日 山梨県立図書館）

(4) 静岡県・山梨県関係資料の相互利用による企画展示

- ・「特別名勝 富士山」

（2月1日～2月27日・静岡県立中央図書館、2月14日～3月16日・山梨県立図書館）

(10) 市町立図書館等受取サービス

当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」を行っている。

平成27年10月から受取館4館で先行導入し、平成28年6月に受取館を拡大して本格導入に移行をした。以降、順次受取館を拡大している。なお、サービス導入にあわせて貸出カードの郵送申込みを可能にしたほか、令和3年度からはWeb上での利用者登録の申込みも可能にした。

令和6年度利用実績（遠隔地貸出資料数）

区 分	延べ利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	対応時期
御殿場市立図書館	153	700	R5.7～
裾野市立鈴木図書館	29	84	R4.5～
沼津市立図書館	152	717	H28.6～
富士市立中央図書館	155	447	H28.6～
富士宮市立中央図書館	95	402	H27.10～
三島市立図書館	280	1,075	H28.6～
函南町立図書館	100	390	H27.10～
伊東市立伊東図書館	70	159	H28.6～

松崎町立図書館	30	122	R4. 5～
下田市立図書館	39	132	R2. 12～
焼津市立焼津図書館	209	603	R2. 12～
藤枝市立駅南図書館	273	865	H28. 6～
島田市立島田図書館	59	156	R5. 7～
掛川市立中央図書館	181	893	H28. 6～
袋井市立袋井図書館	104	368	R4. 5～
磐田市立中央図書館	347	1, 257	H27. 10～
浜松市立城北図書館	526	2, 038	H27. 10～
湖西市立中央図書館	47	174	R2. 12～
県総合教育センター図書室	8	23	H28. 6～
静岡県庁(県民サービスセンター)	152	418	R3. 4～
合 計	3, 009	11, 023	

(11) 図書館DX

ア 貸出カード（バーコード）のスマートフォン表示

当館Webサイトのマイライブラリーにログインすることにより、貸出カードのバーコードをスマートフォン等に表示して、貸出時等に利用することができる。令和3年9月1日に開始した。令和6年度のバーコード表示回数は8,125回である。

イ 利用者登録等Web申込

利用者登録の手続きをWeb上で完結することができる。令和3年10月1日に開始した。令和6年度は静岡県内各学校（小学校を除く）に在籍している生徒等を対象に、クラス単位、学年単位または学校単位での申込みの募集を行い、申込みのあった4校について一括登録を実施した（Webによる登録者数p21参照）。

ウ 電子図書館

当館に登録している利用者であれば、当館Webサイトのマイライブラリーで電子書籍を閲覧することができる。令和3年10月1日に開始した（電子図書館利用状況p23、電子書籍数p26参照）。

エ 県市町発行PDFファイル自動収集（クロール）

静岡県及び県内各市町が発行し、Webサイトで公開しているPDFファイルについて、クロール技術を用いて全収集を行う。令和4年3月に収集を開始した。

収集した資料のうち公開が可能なPDFファイルについては、令和6年9月30日から当館Webサイトで公開を開始した。

令和6年度末時点の収集実績は2,149,952件、公開数は432,775件である。

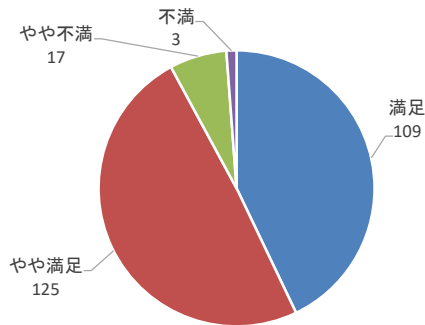
令和6年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果 実施:令和6年11月1日(金)～12月1日(日)

有効回答数 307(うち当館のサービスを利用したことがある254)

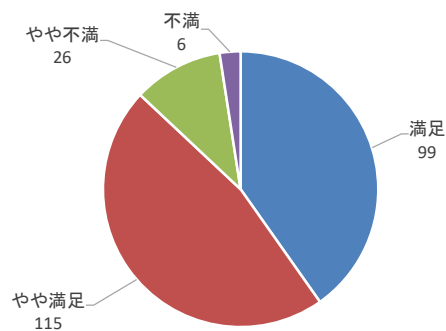
1 総括

質問	満足	やや満足	やや不満	不満	合計	満足+やや満足 (A)	令和5年度(B)	対令和5年度比 (A)-(B)	(参考) 令和4年度
来館(利用)目的の達成度	109	125	17	3	254	92.1%	90.6%	1.5%	90.5%
	42.9%	49.2%	6.7%	1.2%	100.0%				
総合的な満足度	99	115	26	6	246	87.0%	86.3%	0.7%	86.3%
	40.2%	46.7%	10.6%	2.4%	100.0%				
	平均	89.6%	88.4%	1.1%	87.3%				

来館(利用)目的の達成度



総合的な満足度

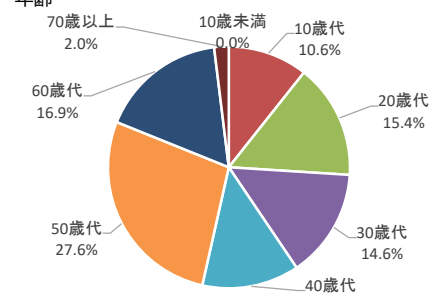


1 利用者の属性

(1)年齢

項目	回答数	令和6年度 割合(A)	令和5年度 割合(B)	対令和5年度比 (A)-(B)
10歳未満	0	0.0%	0.0%	0.0%
10歳代	27	10.6%	8.3%	2.3%
20歳代	39	15.4%	12.7%	2.7%
30歳代	37	14.6%	11.5%	3.1%
40歳代	33	13.0%	20.3%	-7.3%
50歳代	70	27.6%	34.1%	-6.5%
60歳代	43	16.9%	9.9%	7.0%
70歳以上	5	2.0%	3.2%	-1.2%
合計	254	100.0%		

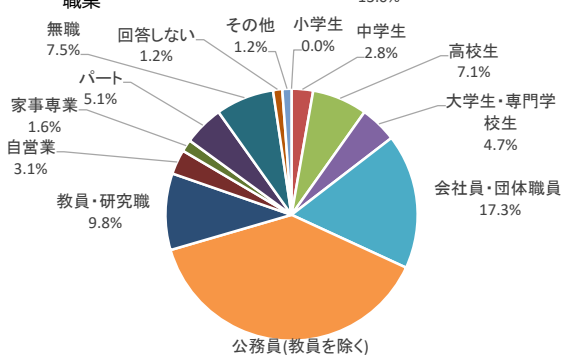
年齢



(2)職業

項目	回答数	令和6年度 割合(A)	令和5年度 割合(B)	対令和5年度比 (A)-(B)
小学生	0	0.0%	0.0%	0.0%
中学生	7	2.8%	2.0%	0.8%
高校生	18	7.1%	4.8%	2.3%
大学生・専門学校生	12	4.7%	6.7%	-2.0%
会社員・団体職員	44	17.3%	18.7%	-1.4%
公務員(教員を除く)	98	38.6%	48.4%	-9.8%
教員・研究職	25	9.8%	3.2%	6.6%
自営業	8	3.1%	2.4%	0.7%
家事専業	4	1.6%	1.2%	0.4%
パート	13	5.1%	5.5%	-0.4%
無職	19	7.5%	5.1%	2.4%
回答しない	3	1.2%	2.0%	-0.8%
その他	3	1.2%	0.0%	1.2%
合計	254	100.0%		

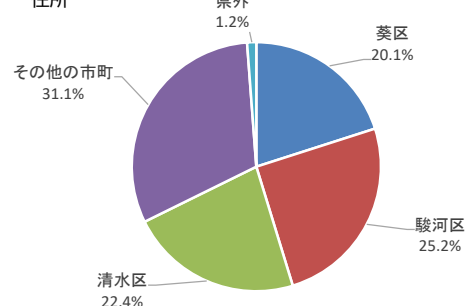
職業



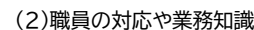
(3)住所

項目	回答数	令和6年度 割合(A)	令和5年度 割合(B)	対令和5年度比 (A)-(B)
静岡市 計	172	67.7%	73.4%	-5.7%
葵区	51	20.1%	25.4%	-5.3%
駿河区	64	25.2%	27.0%	-1.8%
清水区	57	22.4%	21.0%	1.4%
その他の市町	79	31.1%	25.8%	5.3%
県外	3	1.2%	0.8%	0.4%
合計	254	100.0%		

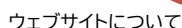
住所



(1)来館(利用)目的(最も近いものを1つ選択)

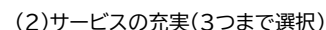
来館目的

職員の対応や業務知識



理由	件数
調べたいことが見つかった	105
知りたい内容にたどりつきやすい	57
ページのデザインがよい	22
文字・画像がみやすい	26
記事の内容がわかりやすい	18
面白いコンテンツがある	11

(1)資料の充実(3つまで選択)

資料の充実

サービスの充実



9 振興班

(1) 市町立図書館振興

ア 市町立図書館運営の支援・協力

(7) 市町立図書館運営の支援

a 図書館活動振興に関わる運営相談

市町立図書館等からの運営等に関する様々な問合せに対して、図書館活動の振興の面から助言や情報提供を行った。質問の受付手段は特に限定していないが、協力車による訪問時や電話が多い。また、要請により時間を確保し運営相談等の支援を行った。

令和6年度は、通常の図書館運営に関する問合せが中心となった。督促に伴う対応、電子図書館の開始・提供に関わることや講師選定の方法など相談内容は多岐にわたった。

令和4年度から開始した「公立図書館（室）への照会・回答」を継続して実施した。第1回は31件、第2回は17件の照会があった。

要請により、1つの図書館を訪問し、情報提供及び運営相談支援を行った。

なお、令和6年度の全相談件数は240件だった。

b 図書館設置条例未設置自治体への支援

静岡県内唯一の図書館設置条例未設置自治体である川根本町に対して支援を行っている。

令和6年度は9月19日にオンライン運営相談（Zoom）、2月21日に川根本町文化会館図書室を訪問し、県内自治体の図書館設置条例についての情報や今後の図書館設置に関する町の状況について情報共有した。また、図書室のサービスなどについて現状を伺いながら助言を行った。

(4) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

協力車事業では、まず、市町立図書館等へ訪問する協力車の定期訪問（8コース、(2)協力車事業 p56～57 参照）を設定し、年7回の訪問を計画して開始した。年度途中で公用車運転における安全性の向上とさらなる業務の効率化を検討する目的で、9月の訪問を中止し、オンライン運営相談（Zoom）を通じて情報交換や運営相談等を試行した。

また、地域館・分館については、政令指定都市は3年に1回、その他の市は2年に1回とし、令和6年度は、26館を訪問した。要請訪問としては、静岡県図書館協会の加盟を検討している東都大学附属図書館沼津分館を訪問し、静岡県内の図書館界の状況等に関する情報提供を行った。

協力車の運行により、運営に関連する相談への対応や情報交換、資料の提供及び事務連絡等を実施することで、各館との連携を図った。

(5) 参考資料・二次資料の作成と提供

『図書館協力ハンドブック PLUM2024』、『令和6年度静岡県の図書館』を発行した。

イ 図書館職員研修（p44～46 参照）

ウ 図書館活動の振興・奨励

(7) 静岡県図書館大会（令和6年度第31回静岡県図書館大会 p57～58 参照）

(4) 読書活動の広報

(5) 読み聞かせグループ活動との連携

(2) 協力車事業

ア 令和6年度訪問館数

（単位：館）

市立図書館（中央館）	市立図書館（分館）	町立図書館	専門図書館	合計
23	1	11	1	36

イ 令和6年度協力車運行状況

コース名	訪問館数	訪問回数	コース名	訪問館数	訪問回数
伊 豆	8 館	6 回	中 部	4 館	6 回
駿 豆	4 館	6 回	東 遠	4 館	6 回
岳 駿	4 館	6 回	中 遠	5 館	6 回
東 部	4 館	6 回	西 遠	3 館	6 回
合 計		48 回（延べ日数 54 日）			

ウ 令和6年度市内巡回運行状況（単位：回）

訪 問 館	訪問回数	訪 問 館	訪問回数
静岡県議会図書室	50	静岡県立大学附属図書館	49
静岡県男女共同参画センター 図書室	49	静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	25
静岡大学附属図書館	24		

エ 協力車巡回と宅配による資料搬送数（過去3年）

(7) 県立資料搬送数（単位：点）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市立図書館	10,298	9,866	9,200
町立図書館	1,354	1,192	1,002
その他	1,322	1,058	1,254
合 計	12,974	12,116	11,456

(4) 市町等資料搬送数（単位：点）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市立図書館	34,538	31,196	32,026
町立図書館	4,750	5,148	5,126
その他	1,152	814	860
合 計	40,440	37,158	38,012

(7) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数（単位：点）

各窓口	令和4年度	令和5年度	令和6年度	開始日
市町立図書館	2,989	3,241	2,841	H11. 5. 1
総合教育センター“あすなろ”	77	82	21	H11. 5. 1
県民サービスセンター	800	813	447	H11. 11. 1
男女共同参画センター“あざれあ”	393	270	363	H13. 2. 15
グランシップ返却ポスト	1,434	1,165	1,178	H14. 8. 13
静岡大学	338	250	378	H18. 4. 1
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	10	23	25	H31. 4. 1
合 計	6,041	5,844	5,253	

(3) 令和6年度 第31回 静岡県図書館大会

期日・会場：令和6年11月11日（月）10:00～15:45 グランシップ中ホールほか（参加者818人）

後 日 配 信：令和7年2月4日（火）～3月5日（水）

講師の許諾が得られた講演は、YouTubeにて配信した。（累計閲覧数427回）

併せて配布資料は、静岡県図書館大会のWebサイトにて公開した。

ア 講演会 【後日配信：要申込み、資料：要申込み】

演 題	「徳川家康は本を読んで天下を取った」
講 師	小和田 哲男 氏（静岡大学名誉教授）

イ 分科会

第1分科会	図書館サービス①（参加者 133 人） 【後日配信：要申込み、資料：要申込み】 「読む喜びを全ての人に～読書バリアフリーの推進～」 講 師 野口 武悟 氏（専修大学文学部教授）
第2分科会	図書館サービス②（参加者 90 人） 【後日配信：図書館職員のみ、資料：申込み不要】 「つながる信州の図書館」 講 師 槌賀 基範 氏（県立長野図書館総務企画課企画係長）
第3分科会	子どもの読書活動（参加者 250 人） 【後日配信：申込み不要、資料：配布資料なし】 「言葉と歩む」 講 師 小風 さち 氏（児童文学作家）
第4分科会	学校図書館（参加者 166 人） 【後日配信：図書館職員のみ、資料：要申込み】 「図書館がカラフルな学びの場になるために図書館員ができること」 講 師 松田 ユリ子 氏（神奈川県立新羽高等学校学校司書）
第5分科会	大学図書館（参加者 28 人） 【後日配信：要申込み、資料：要申込み】 「大学図書館のユニバーサルデザイン ～学生・教職員のために、大学図書館ができること・おこなうべきこと～」 講 師 飯塚 潤一 氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター教授） 宮田 圭介 氏（静岡文化芸術大学名誉教授、 元静岡文化芸術大学図書館・情報センター長）

ウ 表彰

全体会にて表彰式（一部）、及び大会資料にて表彰者氏名の紹介をした。（p59～60 参照）

- ・優良読書グループ表彰 （公社）読書推進運動協議会長賞
静岡県読書推進運動協議会長賞
- ・全国公共図書館協議会表彰
- ・静岡県図書館協会表彰

(4) 関係団体との連携

ア 大学・専門図書館との連携

大学・専門図書館と市町立図書館間の連絡・調整を行い、相互貸借や情報交換など図書館サービスの充実を図った。

(7) 相互貸借等の充実

当館からの協力貸出、大学・専門図書館（市内巡回訪問館）と県内市町立図書館間の相互貸借についての支援（搬送、宅配）を継続して行い、利用者への資料提供数を増やした。

(4) 静岡県図書館大会の開催

大学・専門図書館からも静岡県図書館大会運営委員が選出されて、分科会の企画・運営の中心となった。分科会の内容充実、円滑な大会運営等が図られた。

イ 静岡県図書館協会

県内図書館との連絡・調整を行い、情報交換や図書館大会の主催など、図書館振興を図った。

(7) 静岡県図書館大会の開催

委嘱された県図書館大会運営委員（協会加盟館（室）からの選出）は当館と協力し、講師との交渉や図書館大会当日の運営等の業務を担当した。

(4) 図書館職員研修（p44～46 参照）

(ウ) 『静岡県図書館協会加盟館職員名簿』の発行

(エ) 『静岡県図書館協会 会報』（84・85 号）発行

(オ) 表彰

図書館に永く勤務し、貢献した職員や図書館協議会委員に対して、その功績を称え表彰を行った。賞状は受賞者に送付し、図書館大会で所属及び氏名を紹介した。

ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内の優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

(7) 優良読書グループ表彰

（公社）読書推進運動協議会長賞及び静岡県読書推進運動協議会長賞の選考及び表彰式。

(4) 静岡県図書館大会の開催

県図書館大会運営委員の委嘱を受け、当館と協力して大会運営に携わった。

(ウ) 「静岡県 読書活動だより」の発行

(エ) 「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」の共催

(オ) 夏休み子ども図書ウィークの協賛（別項 p48～49 参照）

エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、外部からの問合せに対する案内や事務局と情報交換等を行った。

(7) 研修会の支援

当館を会場とし、その開催について協力した。

期日・会場：令和 7 年 2 月 16 日（日）・県立中央図書館会議室（参加者 82 人）

演題：「東京子ども図書館の児童サービス～50 年の歩みの中で～」

講師：鈴木晴子氏（東京子ども図書館児童サービス主任）

(4) 静岡県図書館大会の開催

令和 6 年度より県図書館大会運営委員の委嘱を受け、当館と協力して大会運営に携わった。

(5) 表彰（敬称略・関係団体の表彰も含む）

(7) 静岡県図書館大会

優良読書グループ表彰		
・（公社）読書推進運動協議会長賞		
りぼんクラブ		（三島市）
・静岡県読書推進運動協議会長賞		
天城中学校図書ボランティア		（伊豆市）
清水おはなしグーチョキパー		（静岡市）
焼津音訳の会ほおずき		（焼津市）
図書館ボランティアどんぐり		（湖西市）
全国公共図書館協議会表彰		

市川 珠代	(三島市立図書館)	佐野 裕美	(三島市立図書館)
中島 多美子	(三島市立図書館)	井上 やす子	(沼津市立図書館)
北澤 昌子	(沼津市立図書館)	杉山 昌江	(沼津市立図書館)
岩ヶ谷 いつ子	(島田市立図書館)	鈴木 真理	(島田市立図書館)
熊谷 成子	(島田市立図書館)	小野 仁	(浜松市立中央図書館)
林 昭光	(森町立図書館)	油井 莞爾	(森町立図書館)
※県図書館協会加盟館一覧順、所属は令和6年3月31日現在			
静岡県図書館協会表彰			
大橋 恭子	(静岡県立中央図書館)	新妻 沙喜	(菊川市立小笠図書館)
植田 由美子	(伊豆市立修善寺図書館)	深尾 敦子	(菊川市立図書館菊川文庫)
石川 啓子	(伊豆の国市立菰山図書館)	小澤 利華	(菊川市立図書館菊川文庫)
宇佐美 伸子	(伊豆の国市立菰山図書館)	高橋 真弓	(掛川市立中央図書館)
岩田 里美	(裾野市立鈴木図書館)	成木 美佳	(磐田市立中央図書館)
林 盛	(裾野市立鈴木図書館)	満永 裕恵	(浜松市立中央図書館)
田内 直子	(沼津市立図書館)	日高 純江	(浜松市立中央図書館)
鈴木 加代子	(沼津市立図書館)	石川 朋子	(浜松市立中央図書館)
鈴木 節子	(富士宮市立中央図書館)	山本 敏子	(浜松市立春野図書館)
小畑 佐由里	(静岡市立藁科図書館)	笹竹 由美子	(浜松市立天竜図書館)
毛利 奈緒	(静岡市立藁科図書館)	宮谷 恵子	(森町立図書館)
塚本 晴乃	(静岡市立長田図書館)	小渡 真住	(静岡大学附属図書館)
安藤 美樹子	(静岡市立長田図書館)	長谷川 勲	(日本大学図書館国際関係学部分館)
久野 友子	(島田市立金谷図書館)	西山 千恵美	(静岡県立大学短期大学部附属図書館)
杉本 文	(島田市立金谷図書館)	山田 直美	(静岡県総合教育センター)
横山 愛	(菊川市立小笠図書館)		
後藤 明美	(菊川市立小笠図書館)		
※県図書館協会加盟館一覧順、所属は令和6年9月1日(退職者は3月31日)現在			

(イ) その他

社会教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）			
伊藤 博（静岡県読書推進運動協議会長）			
子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）（文部科学大臣表彰）			
図書館の部			
焼津市立図書館		※初出のためこれまでの被表彰館を以下に掲載する。	
令和5年度	清水町立図書館	平成24年度	菊川市立図書館
令和4年度	南伊豆町立図書館	平成23年度	島田市立島田図書館
令和3年度	藤枝市立図書館	平成22年度	磐田市立中央図書館
令和2年度	伊東市立伊東図書館	平成21年度	静岡市立中央図書館
平成31年度	沼津市立図書館	平成20年度	裾野市立鈴木図書館
平成30年度	函南町立図書館	平成19年度	掛川市立中央図書館
平成29年度	袋井市立図書館	平成18年度	富士市立中央図書館
平成28年度	東伊豆町立図書館	平成17年度	三島市立図書館
平成27年度	富士宮市立図書館	平成16年度	浜岡町立図書館（現御前崎市）
平成26年度	河津町立図書館文化の家	平成15年度	浜松市立中央図書館
平成25年度	浜松市立天竜図書館	平成14年度	竜洋町立図書館（現磐田市）

10 総務班

(1) 図書館協議会

ア 委員

任期：令和4年8月1日から令和6年7月31日まで

氏 名	現 職	備 考
奥村 篤	静岡県都市教育長協議会長 (沼津市教育委員会教育長)	学識経験者
平松 栞	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科専攻	社会教育関係者
庄田 達哉	(株) 静岡新聞社 編集局出版部	学識経験者
鈴木 千明	磐田市立富士見小学校図書館ボランティア 磐田市立城山中学校図書館ボランティア 読み聞かせボランティア	社会教育関係者
鈴木 真澄	静岡県家庭教育支援員 県PTAサポーターズ事務局長	家庭教育関係者
高山ひさ乃	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立井宮小学校長)	学校教育関係者
山崎 克巳	社会福祉法人ピロス 障害者相談支援センターピロス相談支援専門員 静岡県車いす友の会役員	学識経験者
轟木堅一郎	静岡県立大学教授 (同附属図書館長)	学識経験者
服部祐三子	御前崎市立図書館長	社会教育関係者
吉見光太郎	静岡県書店商業組合理事長 (株) 吉見書店代表取締役 静岡教科書 (株) 代表取締役	学識経験者

任期：令和6年8月1日から令和8年7月31日まで

氏 名	現 職	備 考
太田 桂	静岡県都市教育長協議会長 (富士市教育委員会教育長)	学識経験者
片瀬 愛理	常葉大学教育学部生涯学習学科生涯学習専攻	社会教育関係者
庄田 達哉	(株) 静岡新聞社 編集局出版部	学識経験者
鈴木 千明	磐田市立富士見小学校図書館ボランティア 磐田市立城山中学校図書館ボランティア 読み聞かせボランティア	社会教育関係者
鈴木 玲子	静岡県人づくり支援員 静岡県家庭教育支援員 静岡県子ども読書アドバイザー	家庭教育関係者
清 俊之	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立清水第六中学校長)	学校教育関係者
土居 由知	静岡県視覚障害者情報支援センター長	学識経験者
轟木堅一郎	静岡県立大学教授 (同附属図書館長)	学識経験者
小久江暁子	袋井市立袋井図書館兼浅羽図書館長	社会教育関係者
吉見光太郎	静岡県書店商業組合理事長 (株) 吉見書店代表取締役 静岡教科書 (株) 代表取締役	学識経験者

イ 協議会

(7) 第 1 回

日 時：令和 6 年 6 月 14 日（金）午後 1 時 30 分～午後 4 時

出席者：委員 8 人

議 事：1 県立中央図書館の状況及び令和 6 年度の主要施策について
2 各課の業務紹介と令和 6 年度重点取組について

(4) 第 2 回

日 時：令和 7 年 3 月 6 日（木）午後 1 時 30 分～午後 4 時

出席者：委員 9 人

議 事：1 県立中央図書館の状況について
2 令和 6 年度の主要施策報告・重点取組の評価について
3 令和 7 年度の基本方針と主要施策について

(2) 施設設備の維持管理

職員による施設の安全点検を毎月実施し、危険個所の早期発見に努めた。

空調設備の不調や雨漏等を抜本的に改善する大規模工事の実施が困難であることから、小規模修繕を随時行うことで、図書館運営への影響の最小化を図った。

(3) 施設利用状況

令和 6 年度 各施設の外部利用人数

(単位：人)

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B	合 計
上半期	157	350	204	147	127	985
下半期	165	320	311	133	104	1,033
合 計	322	670	515	280	231	2,018

11 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。5～6人で構成される館内組織横断型の委員会を設置し、事業にあたっている。令和6年度は、静岡県看護協会の「まちの保健室」の実施や健康医療情報講演会の開催に加え、出張図書館を行い、利用者に健康医療情報を届ける役割を果たした。

(1) サービス内容

ア 健康医療情報コーナー

(ア) 内容

- ・参考図書（辞書事典類）
- ・ヘルスリテラシー関連資料（ナラティブ関連資料を含む）
- ・入門書・図解シリーズ
- ・健康医療情報関係雑誌 10誌
- ・特集展示（月ごとのテーマ展示）関連資料の展示・資料リスト配布

(イ) 特集展示のテーマ一覧

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
3～5月	メンタルヘルス	10～11月	感染症と免疫
6～7月	依存症・アディクション	12～2月	目の健康
8～9月	夏の健康管理	3～5月	認知症

イ オンラインデータベース

- ・医中誌Web [特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会]
国内発行の医学・歯学・薬学・看護学・心理学及び関連分野（スポーツ医学・獣医学など）の定期刊行物、延べ約8,000誌から収録した1,600万件以上の論文情報を検索できる。
- ・ヨミドクター [読売新聞社]
読売新聞の医療・介護・健康情報サイト。医療大全、病院の実力、医療相談室、介護シニアなどのコンテンツがあり、様々な記事が掲載されている。
- ・JDreamIII [株式会社ジーサーチ]
国内外の科学技術や医学薬学関係の文献情報を検索できる日本最大級の科学技術文献データベースである。約8,000万件の文献情報を検索できる。

(2) 関連事業

ア 健康医療情報講演会（令和6年度は静岡県眼科医会による後援あり）

演題：「アイフレイルとは？ 人生100年の時代に視力を失わないために気を付けること」

講師：高良 俊武 氏（静岡県眼科医会会長 高良眼科医院院長）

実施日：令和7年2月8日（土）14:00～16:00 参加人数：43人

イ 出張図書館

県立図書館が所蔵する健康医療に関する資料の展示、新規利用者登録、貸出処理等

- ・「生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学 2024」での出張図書館

実施日：令和6年10月26日（土）10:00～15:30

会場：静岡県立大学 看護学部棟4階 13411 講義室前

ウ 外部機関との共催事業など

- ・まちの保健室（県看護協会による健康相談会）

実施日：令和6年7月24日（水） 参加人数：18人

12 歴史文化情報センター（地域調査班）

(1) 県史編さん収集資料の保存・整理・公開

ア 保存・整理

当センターは静岡県史編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約 16 万点以上の資料を保管している。保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。

イ 公開

古文書類については、目録作成が終了したものから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたものをインターネット等で公開している。

ウ 利用促進

令和 5 年度に静岡中央ビルから本館へ移転し、令和 6 年 4 月 2 日よりサービスを再開させた。それに伴いサービス内容が変更されたため、リーフレットを作成、関係機関へ配布し、周知を図った。また、『葵』や「文化の丘」で資料紹介を行った。

エ 移転に伴う資料整理

センター所蔵資料について、本館所蔵資料との重複確認を行い、本館資料への統合、重複資料の整理を行った。

(2) 利用状況

令和 6 年度の古文書閲覧件数 35 件（189 点）、資料掲載等許可申請 44 件（77 点）、レファレンス 79 件であった。

レファレンスの内訳は以下のとおりである。

ア レファレンス受付方法

方法	割合(%)
電話	76.0
来館	12.7
はがき・封書	1.3
メール	10.0

イ レファレンス内容

内容	割合(%)
県史の内容等	7.6
歴史・民俗について	58.2
資料利用について	30.4
その他	3.8

ウ レファレンス対象

対象	割合(%)
一般(県内)	39.2
一般(県外)	15.2
県庁内	2.5
研究者・学生	16.5
自治体	15.2
新聞社・出版社等	7.6
その他	3.8

13 資料紹介 新貨を流通させる—大村正敏家「金銀引替御用」関係文書

歴史文化情報センター

富士市岩淵の大村正敏家に残る古文書は、年貢、流通、土地関係など多岐にわたり、地域の歴史を今に伝えている。中でも特徴的なのは文政期を中心とした一連の「金銀引替御用」関係文書である。金銀引替御用は幕府の貨幣改鑄に伴い、旧貨と新貨の交換を請け負う役目であった。「金銀引替御用」関係文書は、地方における幕府の通貨政策の実態を伝える点で、他に例を見ない貴重な史料群といえる。

【岩淵と大村家】

江戸時代の岩淵は、富士川舟運の終点であり、岩淵の河岸で引き揚げられた荷は蒲原まで陸送され、そこから船で清水湊へ運ばれた。また、岩淵には富士川渡船の船着場があり、東海道の吉原宿と蒲原宿の間にある間宿（あいのみち）でもあった。岩淵は水陸の要衝だったのである。大村家は、ここで、地主経営のほか、物資輸送や地元商品の販売等にかかわったと思われる。幕末には渡船の運営のほか、名主役を務めている。



【江戸時代の貨幣改鑄と文政金銀】

江戸時代には、金銀銭の3種類の通貨が使用された。金は主に東日本で、銀は西日本で流通した。金は数量貨幣で、単位は両分朱。換算割合は、1両＝4分、1分＝4朱であった。

幕府は通貨量増加のほか、改鑄によって金銀の含有量を減らし、その分の差金収入を得ることを目的に、元禄以来何度も貨幣改鑄を繰り返した。中でも最も改鑄の頻度が多かったのが文政期である。

文政期は11代将軍徳川家斉の治世下、化政文化が花開いた時代である。その一方で幕府は深刻な財政危機に見舞われていた。時の老中水野忠成は改鑄による差金収入を目的に、文政の12年間で実に7回9種に及ぶ貨幣改鑄を行っている。この時期に鑄造された貨幣は「文政金銀」と呼ばれた（天保3年の二朱金鑄造も水野忠成の統括した一連の鑄造であるとして、これに含む）。文政金銀にかかわる貨幣の改鑄状況は以下のとおりである。

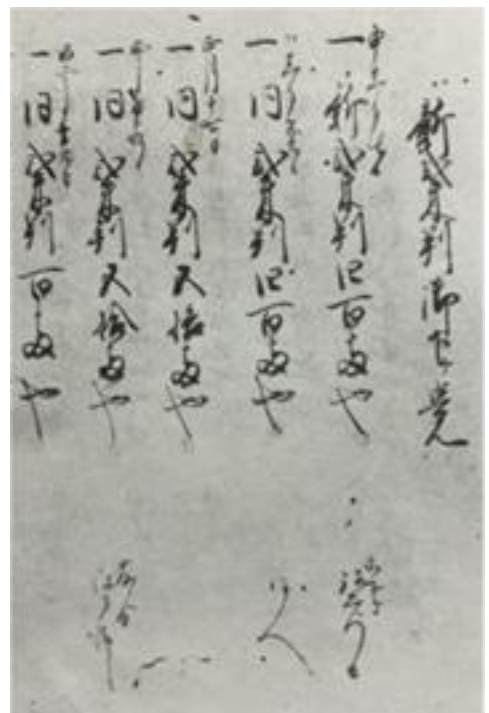
表 文政金銀一覧

名称	鑄造御用	平均量 目(匁)	平均品位 (千文中)	名称	鑄造御用	平均量 目(匁)	平均品位 (千文中)
真文二分判	文政元－11	1.74	563	文政二朱銀	文政7－天保9	2.01	980
真文小判・ 一分判	文政2－11	3.49 0.80	560	文政一朱金	文政7－天保3	0.37	123
				草文二分判	文政11－天保3	1.75	489
草文丁銀・ 豆板銀	文政3－天保8	—	353	文政一朱銀	文政12－天保8	0.70	988
				天保二朱金	天保3－安政5	0.44	299

【金銀引替御用の任用】

貨幣改鑄に当たっては原料となる金銀が枯渇していたため、旧貨の回収が必須であった。幕府はそのため、江戸・大坂の両替商を「引替所」に任じ、旧貨と新貨の交換業務に当たらせた。さらに地方でも諸国の有力商人や農民を金銀引替御用に命じ、交換業務に当たらせた。

文政6年（未）7月、大村惣右衛門は、葦山代官江川氏から駿河伊豆相模を対象とする「御吹直金銀引替御用」を命じられた。惣右衛門のほかに、豆州田方郡多田村の名主弥治右衛門、三島宿の間屋友右衛門、豆州君沢郡北江間村の名主清治郎、豆州田方郡中村の名主友右衛門が引替御用に任じられている。いずれも地域で名の通った豪農、豪商である。幕府は地域における彼らの名声と信頼をもって交換業務を円滑に進めようとしたのである。金銀引替御用については、以前御用を務めた者が再任されるケースが多かったようだが、大村家ではこの時初めて任命されたものと思われる。



引替御用に下賜された新貨の記録。

「新二朱判」のものである

（「文政六年 金銀引替帳」）

【金銀引替御用の職務】

交換業務の手順であるが、まず金銀座で鑄造された新貨が江川代官所江戸役所に運ばれ、そこから江川代官所葦山役所に移送される。引替御用の者は、ここで新貨を受け取る。引替御用の者は、新貨を預かる際、担保としてその分の田畑を差し出すことを命じられていた。惣右衛門は101町歩余（4,626両分）に上る田畑を差し出している。交換が進み、手持ちの金銀のうち1／3程度の交換が終わった時点で引替御用は葦山役所から江戸役所に回収した旧貨を送り、旧貨はそこから金銀座へ運ばれた。

新旧貨の交換については、「金銀所持の者へ相対いたし引替申すべし」とあり、強制ではなく、あくまで交渉によって回収することとされた。引替御用には業務に必要な宿泊費・旅費が支給され、公用人馬使用が認められていた。また、交換額に応じて手当銀が下された。しかしながらそれらは決して十分なものではなく、自己負担がかなりの額に上った。

【引替御用の実態】

惣右衛門は交換業務のために実際各地に足を運んでいる。文政7年9月には、駿河国の各村の名主を廻った記録がある。回収した金額が書かれている村もある一方、記載のない村も多い。村による経済格差や貨幣の浸透度合いの違いを感じさせる。一方で、惣右衛門は各地の有力農民や商人には一定量の新貨を預け、交換業務を委託している。惣右衛門の預け先は以下のとおりである。

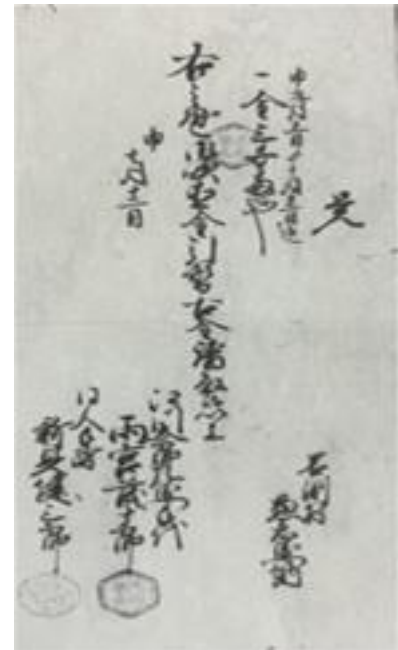
表 大村惣右衛門の新貨預け先(交換業務の委託先)

単位は両

沼津 亘三郎	300	大宮町 池谷屋	130	三度屋 儀左衛門	30
平垣 安兵衛	50	岩本村 山崎氏	10	甲州鯉沢 喜平次	200
蒲原宿 庄兵衛	120	松岡村 弥兵衛	100	甲州鯉沢 栄七	120
松野村 惣兵衛	10	峯村 三蔵	20	沼津 義三郎	100
上ノ山 松次郎	20	川口	10	天間村 平十郎	20
大宮町 源右衛門	30	長沢 平兵衛	15	甲府 鉄屋文右衛門	300

大村家に残る「御用日記」は文政6年7月25日から8月25日までの1か月間、引替御用の多田村の弥治右衛門が相模国に出張し、交換業務を行った際の日記である。弥治右衛門は東海道を移動しながら土地の富裕者に面会し、日々貨幣交換を依頼している。途中、当時、引替御用に任用されていた三島宿の朝日与右衛門と手分けして業務を行っていることがわかる。2人にとって相模国は、なじみのない場所であり、伊豆の富裕者や寺社、小田原藩、江川代官所手代等の紹介、協力によって、業務を進めていることがわかる。

引替御用たちは輪番で江川代官の江戸役所に詰めることを命じられていた。その間、葦山役所への新貨の送付と葦山役所からの旧貨の受取り、江戸役所での交換業務等を行っていたものと思われる。江戸での貨幣の預け先については、小川清兵衛、長沢長蔵、榛原専次郎、小牧長之助、山形屋喜兵衛、伊勢屋吉之助、白木屋、内藤鉄蔵用人鈴木良右衛門、元大坂町川井伝兵衛、美濃屋利左衛門の名がみえる。



惣右衛門が上納した金3千両の受取書。代官所手代の押印がある。

表 「御用日記」の主な記載(文政6年7月25日から8月25日まで)

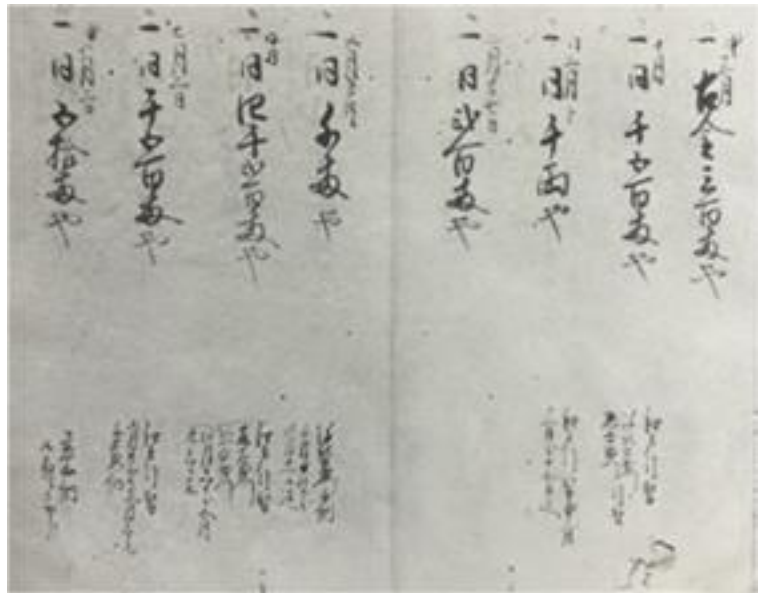
7月 25日	自宅発、熱海・渡辺に引替手当20両預け	8月 5日	蓑毛村に「古金相尋候得共無之」、帰村の上小前等に尋ねるも「一同無之」
26日	伊豆山般若院主面会、相模国知人に書状を書いてもらう、引替手当30両預け	13日	中井村検校、旅宿伊勢屋の斡旋で40両ほど引替、藤沢宿へ出立
27日	江川代官家来山田三内の仲介で小田原城内で勘定奉行、宿老等と面会	15日	大磯宿にて小島才三郎・柳田勝右衛門に手当金100両預け
28日	番衆通行により宿替え、宿に「引替御用宿」の掛ヶ札を掲げる	16日	小田原宿着、宿役人ら700両のうち432両分の古金持参、残りは預け置き
29日	松葉屋伝次郎古金43両持参、夏目半次郎、小田原宿内への働きかけで53両持参	17日	朝日手先に100両を持たせる、栗原村弥市より100両古金で届く
晦日	寺社奉行に寺院方への働きかけを依頼、若林大三郎金700両預かりたい旨申し出	18日	22日まで酒匂川川留
		24日	三島着(翌日自宅着)

【苦境に陥る引替御用】

天保6年段階で、引替御用の者たちは計60万両を引き換えたようである。しかしながら度重なる貨幣改鑄の中、交換業務は停滞していく。その原因は、交換業務にかかわる諸経費の負担とともに、引替御用たちが「手先之者共所々手広ニ金子持廻り居」と述べているように、新貨の預け先からの返金が滞る事態が多発したことにある。その結果、手持ちの金（種金）が減少し、交換自体も進まなくなった。引替御用では、度々代官に新貨の下げ渡しを願っているが、認められていない。

その後幕府は預け金の引き上げを命じたが、引替御用の者たちの手元に金はない。

彼らは、金を工面するために、私的な借金をしたり、他の引替御用から金を融通してもらったりしている。折しも、天保の飢饉に見舞われ、引替御用は経済的にさらに追い込まれていく。惣右衛門も同様であった。金銀引替御用の惣代を務めた多田村の弥治右衛門家では家産が傾く事態となり、家の再興を図るため、後に二宮尊徳の仕法を受け入れることになる。



引替御用が上納した旧貨（古金）の記録
（「文政六年 金銀引替帳」）

【貨幣改鑄の成果】

文政期の貨幣改鑄は、金座関係では文政元年より9か年で184万8千両、銀座関係では文政3年より天保6年までの15か年で383万8千両であった。地方の引替御用の苦労は並大抵ではなかったが、貨幣改鑄によって幕府財政は一息つくことができたのである。

【参考文献】

久光重平. 日本貨幣史概説. 国書刊行会, 1976.

小葉山淳. 日本歴史新書 日本の貨幣. 至文堂, 1958.

仲田正之. 葦山代官江川氏の研究. 吉川弘文館, 1998.

安国良一. 文政改鑄と十五軒組合の成立. 日本史研究. 1983, vol1249, p. 1-28

（文責 柴雅房）



金銀引替御用、多田村弥治右衛門の相模国出張日記

Ⅲ 特 集

- 1 令和6年度葵レク貴重書講座
- 2 寄稿 「浙江省文庫の価値」

1 令和6年度葵レク貴重書講座

「万留帳」の世界～駿府町人の営みが記録された第一級資料～

葵文庫の会会員、静岡市歴史博物館学芸員 青木 祐一

はじめに：江戸時代の駿府

江戸時代の駿府は、江戸幕府を開き大御所として駿府へやってきた徳川家康にはじまります。家康は、慶長12(1607)年から駿府城およびその城下町の整備にとりかかり、現在の静岡中心市街地の基礎となる町割りをおこないました。その後、家康の十男・頼宣(紀伊徳川家初代)、忠長(家康の孫、秀忠の子)が藩主として統治をおこないますが、寛永9(1632)年の忠長の改易により、以降は幕末まで幕府直轄地として江戸時代を経ていくことになります。

1. 駿府の統治体制

江戸時代の駿府の統治体制は、駿府城の警備と、民政という、大きく分けてふたつの役割がありました。駿府城代は駿府城を守るトップとして、定番、在番、加番といった他の役人を束ねていました。一方、駿府町奉行は老中の支配下にあつて駿府町方を治め、駿府代官は勘定奉行の支配下にあつて農村の支配を担っていました。

今回取り上げる内容で直接関わってくるのは、駿府町奉行です。駿府町奉行は、3年から5年交代で江戸から派遣されてくる旗本がつとめる役職で、駿府町方の民政を司り、駿府町人たちと直接やりとりする立場でした。

2. 駿府町方の運営体制「年行事」

駿府町方の運営は当初、町年寄という、友野家、松木家、大黒屋の3家の世襲によって担われる役職によっていました。しかし、町年寄をつとめる3家が相次いで没落すると、「年行事」という制度によって町政が担われるようになります。

年行事とは、駿府町方を構成する各町の代表者である町頭の輪番(当番)制によって、都市を運営していくやり方です。数町から構成される21の組合があり、各組合が30日～90日ずつ当番をつとめるやりかたでした。いわゆる「駿府96ヶ町」といわれますが、このうち年行事をつとめる町は62町、つとめない町は34町ありました。年行事をつとめる町は「地子免許」、今でいう宅地税が免除されている町、年行事をつとめない町は、人足役や職人役などの公的な負担を課せられている町でした。

江戸の町名主は世襲で専業でしたが、駿府の町頭は世襲ではなく、場合によっては入札(今でいう選挙)で選ばれ、商売をもち兼業でつとめる役職でした。駿府における年行事は、駿府町方を代表する立場でした。

年行事の仕事は文政3(1820)年の「年行事勤方覚書」、今でいう業務マニュアルからみえます。まず、毎月の御用日(4日、11日、21日)には町奉行所へ詰めます。また、毎

月、米、酒、油の相場を町奉行所に報告していました。駿府町方の代表者の仕事としては、駿府城下と、江尻宿、丸子宿、清水町、弥勒町へ触れを伝達すること、また各町を集めて寄合をおこない、駿府町方としての意見と取りまとめて、町奉行所へ伝えていました。特に重要だったのは、毎年正月 25 日の初寄合で、浅間神社の祭礼である廿日会祭の運営について話し合うことでした。そのほか、町方の共有施設の維持・管理や、火事・水害などの防災対策にもあたっています。

3. 「万留帳」とは？

静岡県立中央図書館で所蔵する「万留帳」（よろずとめちょう）とは、駿府町方の運営組織である年行事による業務記録です。正徳 5（1715）年から明治 2（1869）年まで 36 冊・150 年以上にわたって書き継がれた駿府町政の記録です。



「万留帳」1 番
と冒頭の記事

正徳 5 年からはじまる「万留帳」の冒頭には、この記録を書く理由・決まりごとが記されています。その内容として、①町奉行所からの「御意」を記すこと、②町方で相談した内容と結果を記すこと、③幕府へ願い出た事項を記すこととあります。また、町人たちで話し合った内容を記録するために、今回新たにこの帳面を作成するともあります。「万留帳」とは、町奉行所とのやりとりや、町人たちで決めたことを「後年之為」、つまり未来に残すための記録ということになります。

この「万留帳」をみていくと、駿府で起こったさまざまな出来事を知ることができます。例えば、享保 3（1718）年には、駿府町奉行所に「御触帳」27 冊を貸し出しています。触れは奉行所から出されるものであるため、本来であれば町奉行所側に記録が残っていなければならないのですが、町奉行所は度々火災に遭って記録を焼失しているようで、町人の側から文書を借りなければならないような状況でした。

駿府の重要な祭礼である浅間神社の廿日会祭についても、度々記事が出てきます。元文 3（1738）年 2 月には、廿日会祭に際して、近国・遠国から見物人がやってくるため、安西から浅間神社にかけての通りに栈敷を出して見物人に貸すという記事があります。廿日会祭が近隣だけでなく遠方からも見物人を集める行事となっており、駿府の経済を潤しているようすがわかります。

明治に入ってからの記事もご紹介します。明治 2（1869）年の正月、駿府の町人たちは「上様」、つまり前年に藩主となった徳川家達にお目見えをしています。明治維新が起こり、家

達は徳川慶喜の後をうけて徳川宗家を継ぎ、藩主として駿府へやってきました。実に忠長以来、230年ぶりの藩主です。その家達を、駿府町人たちは「上様」として迎え入れていたことがわかります。

このように、「万留帳」をみていくと、駿府で起こった出来事、人口や物価といった情報まで知ることができます。

さらに、この「万留帳」には、検索手段としての目録が作られていました。現在、文政10年(1827)年、嘉永3(1850)年、嘉永6(1853)年の3冊の目録が残されています。こうした目録は、膨大にある「万留帳」の記事を検索する手段として作成されました。年行事は各町の輪番(当番)制によって運営されていたため、当番がまわってくるのは約3年半に一度でした。そのため、過去の記事を検索する手段として目録が必要とされたのです。

「万留帳」とはつまり、駿府町方の惣代(代表者)として年行事が書き綴った町政の記録です。年行事が用いていた角印には「駿府」と刻印されています。こうしたことから、年行事が駿府を代表する存在であったことがわかります。

万留帳一覧

1	正徳5年1月	10	寛政8年3月	19	文政10年6月	28	嘉永6年10月
2	元文2年6月	11	寛政12年	20	文政11年7月	29	安政2年7月
3	宝暦4年2月	12	享和1年5月	21	天保4年8月	30	安政4年6月
4	宝暦6年1月	13	享和3年12月	22	天保8年9月	31	安政5年8月
5	明和1年9月	14	文化4年	23	天保11年2月	32	安政7年2月
6	安永1年6月	15	文化6年8月	24	天保14年3月	33	文久1年8月
7	安永7年4月	16	文化11年6月	25	弘化2年4月	34	文久2年12月
8	安永9年8月	17	文化3年、4年	26	弘化4年3月	35	元治1年7月
9	寛政4年3月	18	文政5年10月	27	嘉永4年	36	明治2年8月

4. 駿府の町政と文書管理

「万留帳」のほかにも、年行事は町政に関わる記録を作成・保存していました。例えば、「御用箆笥長持諸書物諸道具目録帳」(天保9年、嘉永1年、慶応2年)という資料があります。これは、町会所(駿府町人の寄合場)であった雷電寺に保管されていた文書や諸道具の目録です。これも必要な文書を探し出す、検索するための手段です。

年行事は当初、「年行事箱」という容器に年行事当番間で引き継ぐ文書を入れて管理していました。しかし、だんだん文書の量が増えてくると、当番間で文書を引き継ぐのに無理がでてきます。そこで、町人の共有施設である雷電寺に置かれた箆笥や長持に、必要な文書を保管するようになります。この箆笥や長持で保管している文書の目録が、「御用箆笥長持諸書物諸道具目録帳」なのです。

駿府の文書管理にとって画期的だったのが、宝暦7(1757)年に雷電寺に土蔵が完成したことでした。これによって、町会所である雷電寺で文書の集中管理が可能となりました。こ

れは、年行事という組織の共有文書が成立したと評価することができます。

駿府における「記録のライフサイクル」をまとめると、年行事が作成・授受（年行事箱に保管）→「御用筆筒」に保管（＝御用筆筒目録の発生）→土蔵へ移動・保管（＝土蔵目録の発生）→定期的な虫干し・修復という流れになります。このような形で、年行事は駿府町方の貴重な記録を管理していたのです。

以上のように、駿府の年行事が「万留帳」をはじめとする文書を管理していた理由をまとめると、①年行事による業務利用（当番がまわってくるのは約3年半に一度で、先例を知るため）、②町奉行所への貸出・閲覧（町奉行は頻繁に交代し、火災による焼失もあり）、③町人からの照会（先例を知るため、証拠として／紛争の解決手段として）となります。

おわりに：「静岡市史編さん資料」のもつ意義

現在の静岡県立中央図書館には、今回ご紹介した「万留帳」を含む「静岡市史編さん資料」という資料群が所蔵されています。これは、戦前の『静岡市史』編さん事業に伴って収集された資料群で、133タイトル・360冊にのぼります。内容は、原本、謄写本、刊行物などが混在しており、詳細な分析は今後の課題ですが、本資料群の内容・構造を分析することにより、戦前の静岡市史の編さん事業における史料収集活動の実態や、すでに失われてしまった資料の内容が明らかになると考えられます。県立や市立のアーカイブズ機関が存在しない静岡にとって、本資料群のもつ意義は非常に大きいものがあります。

静岡県立中央図書館の前身にあたる葵文庫では、「郷土資料」として古文書・古記録が積極的に収集され、郷土資料展覧会も開催されていました。市と県という組織の違いはありますが、歴史資料の保存利用機関を有さなかった静岡において、戦前に収集された資料が葵文庫に所蔵されたのも、自然な流れといえるでしょう。

今後は、県立中央図書館に残されたこうした貴重な資料を、読み解き、活用していくことが、私たちの使命なのです。

【参考文献】

- ・柴雅房「近世都市における惣町結合について：駿府町会所「万留帳」の分析から」（『史境』37号、1998年）
- ・拙稿「近世都市における文書管理について：「駿府町会所文書」を中心に」（『千葉史学』39号、2001年）
- ・拙稿「近世都市における惣町文書の構造的分析：駿府町会所文書「御用筆筒長持諸書物諸道具目録帳」の分析を事例に」（千葉大学、2002年）
- ・拙稿「静岡県立葵文庫とその事業：アーカイブズの観点から」（『学習院大学文学部研究年報』59輯、2012年）

2 寄稿 「浙江省文庫の価値」

静岡県立大学グローバル地域センター特任准教授 横井香織

静岡県と浙江省との交流



1982 年 4 月、静岡県は浙江省と友好提携を結んだ。1978 年に日中平和友好条約が締結され、国家間だけでなく地方間の結びつきが強まる中で、都道府県レベルでは全国で 4 番目という早い時期に友好提携を結んだのである。これ以後、静岡県の交流は、持続可能であること、双方向のバランスをとること、草の根の交流を軸にすることを念頭に進められていった。

静岡県の交流事業の特徴として、党派を超え官民一体となった日中交流を促進する組織、静岡県日中友

好協議会の発足をあげることができる。協議会是对中国の窓口として、行政の周年記念事業はもちろん、人やもの、情報の交流を支援してきた。これまでに学校間の交流をはじめ、卓球やサッカー、マラソンなどのスポーツ交流、囲碁、書画、食などの文化交流など、地道な交流が行われてきた。その中で、継続して行われてきた文化的な交流事業の一つに、図書館交流がある。

図書館の交流事業

1992 年、静岡県・浙江省友好提携 10 周年を機に、浙江省から静岡県に書籍が寄贈され、翌 1993 年には静岡県立中央図書館に「浙江省寄贈文庫」コーナーが開設された。友好提携 25 周年の 2007 年にも、改めて書籍の寄贈を受けるとともに浙江図書館員を研修生として受け入れた。こうした経緯から 2009 年、静岡県立中央図書館と浙江図書館は友好提携を結び、毎年、書籍や雑誌を交換するようになった。それらの書籍や雑誌は、現在、双方の図書館で「浙江省文庫」「静岡文庫」として一般に公開されている。

友好提携を結んでいる浙江図書館について、若干触れておきたい。浙江図書館の前身は、1900 年に創建された杭州蔵書楼である。蔵書楼は 1909 年に浙江政府に編入されたのち、1912 年に中国で最も早い公共図書館の一つとして完成し、翌年、一般公開された。2024 年現在、蔵書は文献約 885 万点、電子図書約 510 万点、デジタル資料 401TB である。文献には唐代の經典や宋・元・明代の版本など、古書の優良な複製が 15 万点以上含まれている。このほか浙江図書館としては、浙江省の郷土文学の収集に力を入れているほか、浙江省の年鑑、地図、新聞、雑誌などをすべて所蔵している。このような歴史ある中国有数の公立

図書館との交流は、葵文庫に歴史をもつ静岡県立中央図書館にとってはもちろん、静岡県にとっても意義あるものといっていよう。

浙江省文庫の特色

現在、静岡県立中央図書館には、比較的新しい図書が多い開架の浙江省文庫と閉架のものがある。（閉架の図書については、書誌データを作成中である。）毎年寄贈されてきた浙江省文庫は、見ごたえのある「中国大百科全書」をはじめ、浙江省の旅行案内や中国ならではの漢方など東洋医学の書物、挿絵が少なく児童書とは思えない「少年児童文庫」、「十大シリーズ」など、「知」の魅力であふれている。それらをデジタル資料ではなく、現物の図書として手に取ることができる、というところが有用である。今回はこれら浙江省文庫の代表的図書である「地方誌」を紹介する。

「地方誌」というのは、日本でいう「地方史」のことである。浙江省文庫に所蔵されているのは、中華人民共和国の方針に沿って、1980年代中ごろから編纂されていった「地方誌」である。最古の「地方誌」は漢代に編まれたといわれるが宋代以前のものは多くが散逸しており、宋・元・明代以降に編まれた「地方誌」がその後の母体となっている。中国史、特に中国の地域社会や地方の政治史、経済史、文化史などを研究する場合、地方の新聞や雑誌のほかに「地方誌」をひも解くことが鉄則である。「地方誌」は、行政区画ごとの膨大なデータを掲載した資料の宝庫なのである。ここでは、浙江省第二の都市、寧波を例に「地方誌」を紹介する。

現在の寧波市は6つの区（海曙区、江北区、鎮海区、北侖区、鄞州区、奉化区）と4つの縣市（余姚市、慈溪市、寧海県、象山県）から構成され、面積は静岡県の1.2倍、人口は997万人である。日本の「市」や「県」とは異なり、規模が大きい。寧波は、東シナ海に面した歴史の古い都市である。唐代より東アジア海域の交流で重要な役割を果たしてきた。日本の遣唐使船はここに上陸し、鑑真和上はここから日本へ出発した。寧波は唐・宋代には明州と呼ばれ、明代に寧波という呼称となった。また、行政区画は何度となく変更されてきた。こうした歴史に基づいている寧波の「地方誌」は、「鄞県誌」「鎮海県誌」「奉化市誌」「象山県誌」「余姚市誌」「寧海県誌」「慈溪県誌」である。これらはある時期の行政区画で編纂された「地方誌」が、一定の年月を越えて再び編纂され、それが受け継がれてきた結果なのである。その一つである「鄞県誌」は上下2冊の大作で、宋代の地図や1980年代後半の写真、地形図、行政や経済、社会、文化などの豊富な資料が掲載されている。ページをめくると、昨今とは異なる風景に出会うことになるであろう。ぜひ手に取ってみたい資料である。



当館所蔵「浙江省文庫」『地方誌』の一部

IV 施設及びサービス案内 (令和 7 年度)

1 図書館配置図



2 施設の概要

(1) 静岡県立中央図書館

- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m²
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m² 188席) 書庫 (延2,515.56 m²) 子ども図書研究室 (92.00 m²)
事務室 (593.60 m²) 電算室 (96.00 m²)

.....

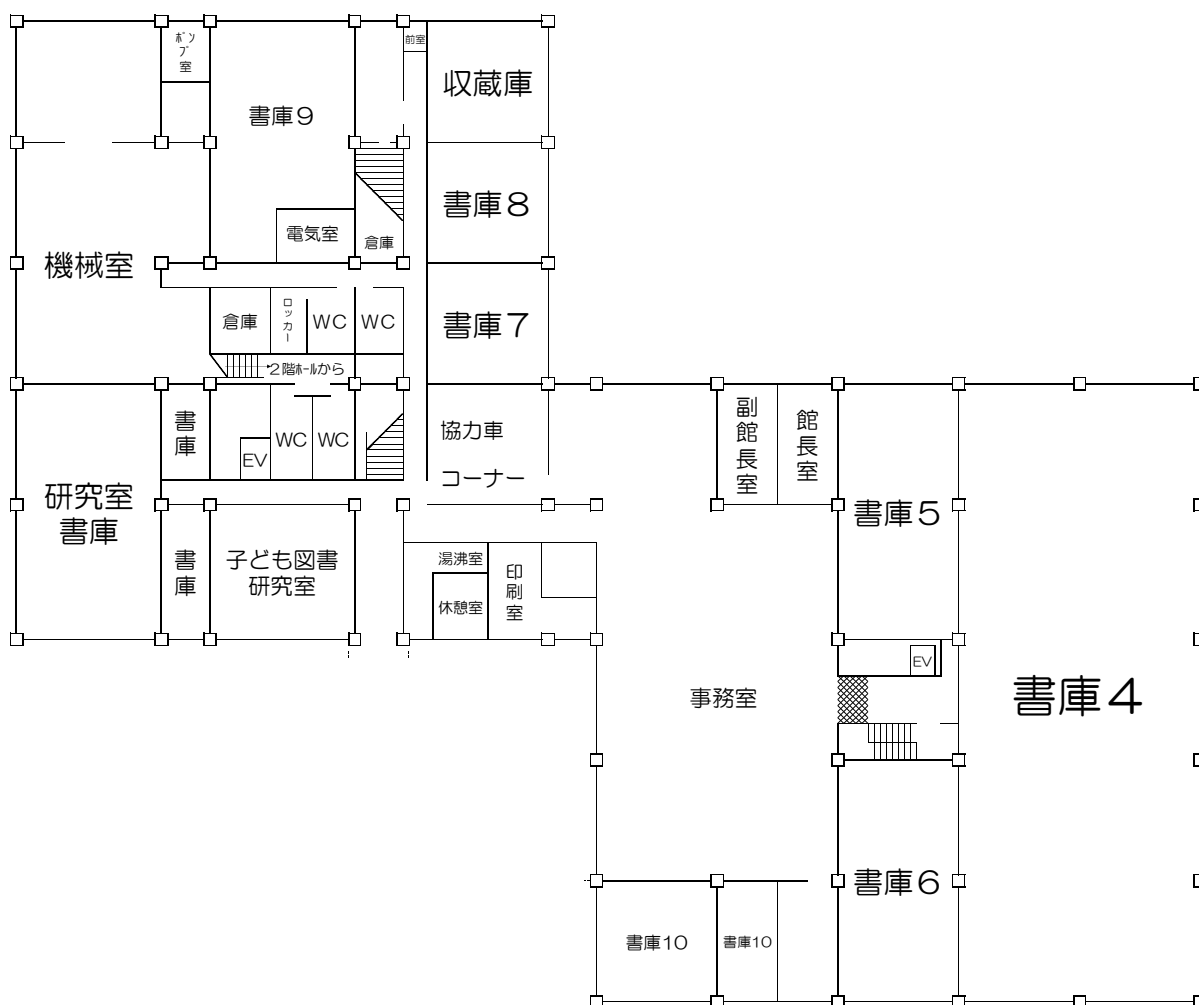
講堂 (276人) 会議室 (120人)

中集会室 (50人) 小集会室A (30人) 小集会室B (20人)

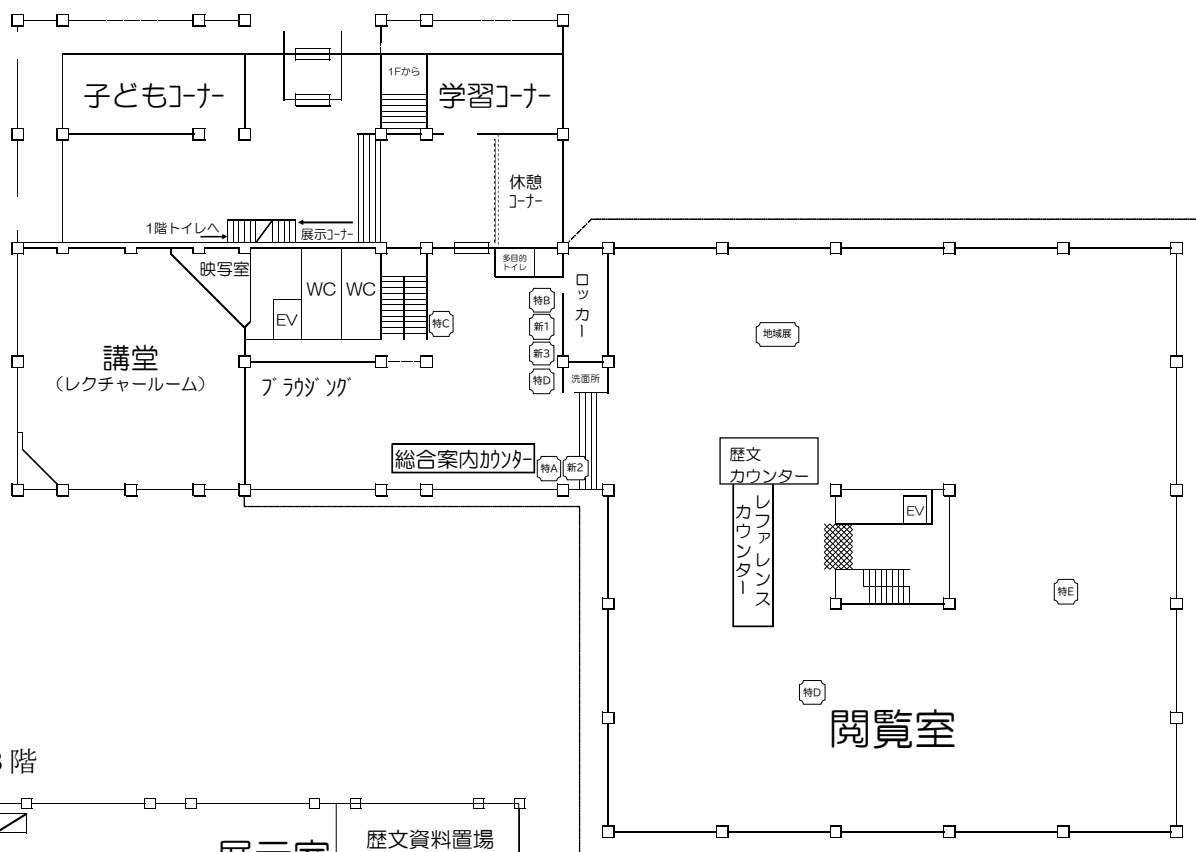
展示室 (延壁90 m²)

- ・平面図 (以下のとおり)

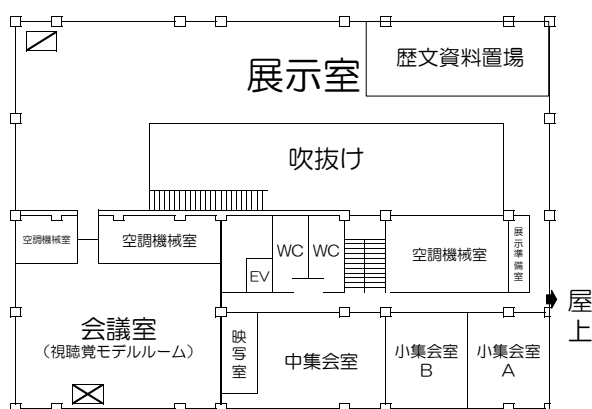
1階



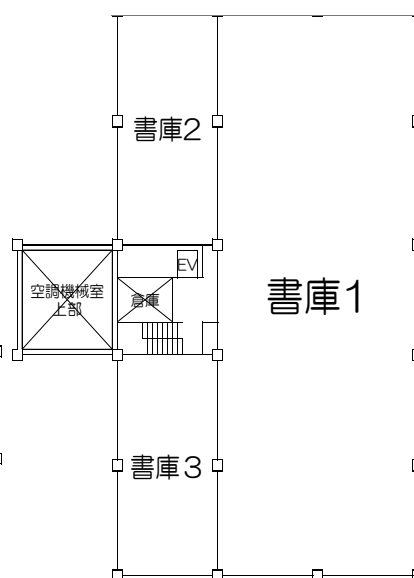
2階



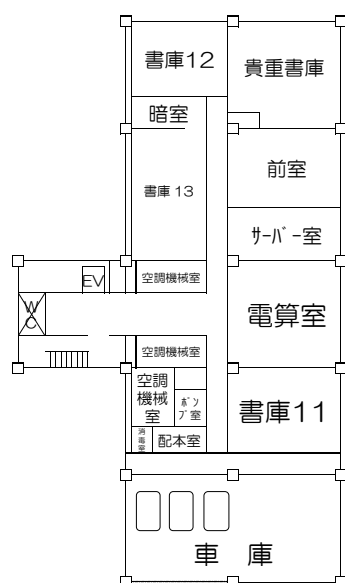
3階



BM階



B階



(2) 旧埋蔵文化財センター

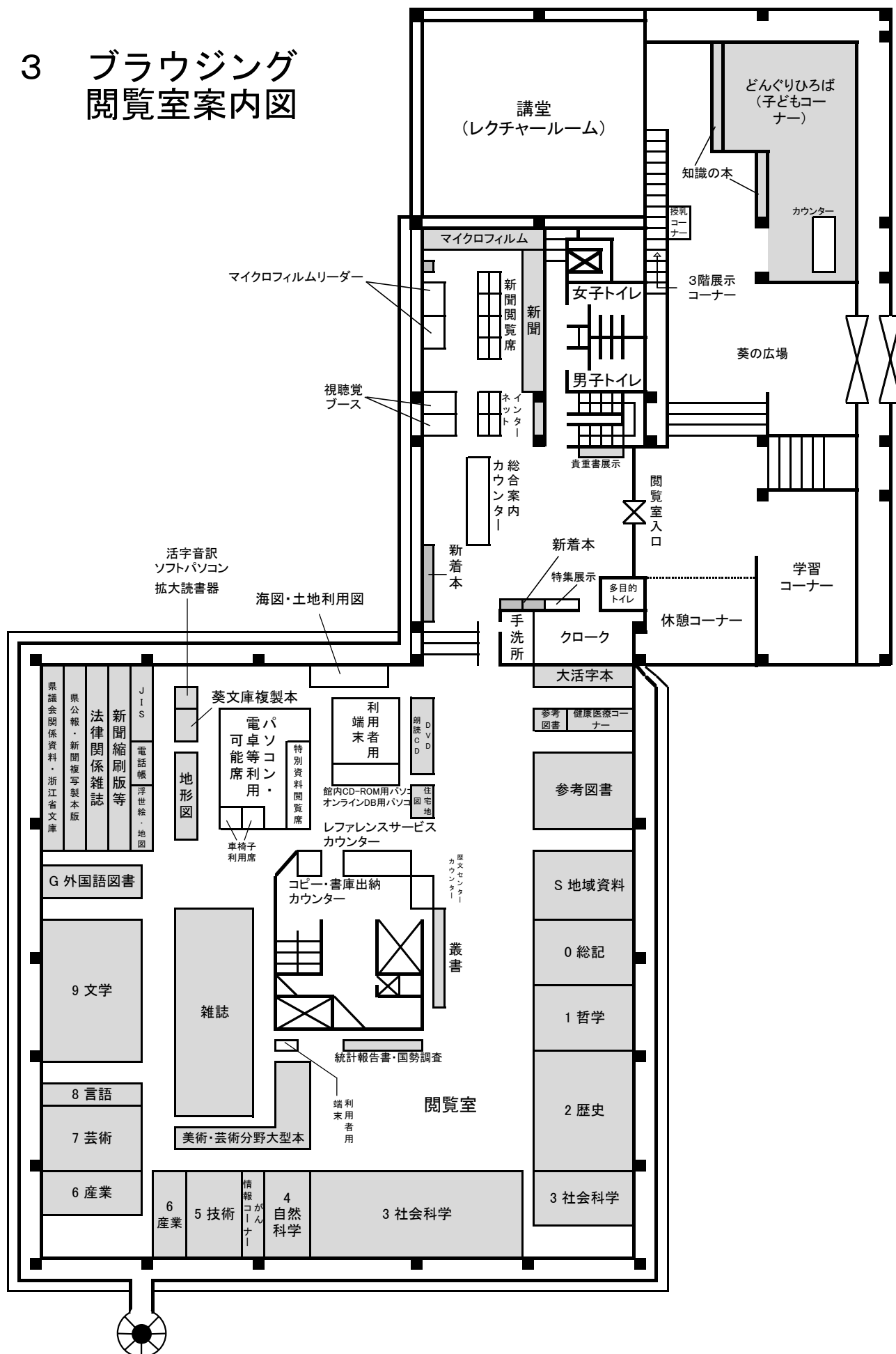
- ・鉄筋コンクリート 地上2階
- ・延面積 2,176.73 m²
- ・主な施設 1階部分を書庫として使用 (1,070.52 m²)



(3) その他建物

- ・自転車置場 107.10 m²
- ・旧埋蔵文化財センター機械室 154.68 m²
- ・ 〃 プレハブ棟 328.06 m²

3 ブラウジング 閲覧室案内図



4 利用案内（令和7年度）

◆開館時間

午前9時～午後5時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前9時～午後7時）

◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第1・3・5月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

◆資料

●一般図書・外国語図書・地域資料・児童資料・電子書籍

●新聞・雑誌・マイクロフィルム

●DVD・朗読CD等視聴覚資料

●特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）

原本の閲覧については事前に可否の確認と予約が必要
問合せ先 調査課一般調査班

◆閲覧・貸出・複写

●閲覧室には約10万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約200席

●図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人20点まで、22日以内

視聴覚資料の貸出しは一人3点まで、22日以内
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（運転免許証等）

●資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

◎歴史文化情報センター

・利用時間

図書館開館日の平日 午前9時～午後5時

資料の出納受付は午後4時まで

出納資料の返却は午後4時30分まで

土日祝日は事前予約した資料の閲覧複写のみ可能
（資料の追加、レファレンス等は不可）

・資料

県史編さん時の収集資料（古文書複写物、写真等）

・業務内容

県史編さん時の収集資料の保存・整理・公開に関すること
刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問合せへの回答

◎子どもコーナー「どんぐりひろば」

・利用時間

図書館開館日の午前9時～午後5時

・資料

絵本 約6,000冊

読み物 約2,000冊

知識の本 約1,000冊

・特徴

授乳室あり、一部カーペット敷き

定期イベントとしておはなしかいを開催

◎子ども図書研究室

・利用時間

図書館開館日の午前9時～午後5時

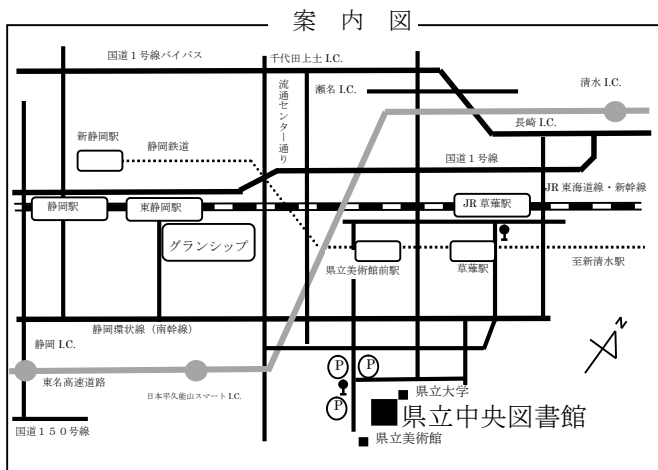
・資料

児童書約12万冊

・特徴

平成15年度以降に刊行された児童書（コミック、ゲーム
攻略本、学習参考書等を除く）を全点収集

中学生を除く15歳以上の方が利用可



所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268

表紙・裏表紙図版

『仏露辞典』下巻 (Polnoi Frantsuzskoi i Rossiiskoi leksikon)

当館請求記号：A0015

著 者：タチシチェフ

出版年：1798年

大きさ：22×14cm

当館葵文庫所蔵のこの『仏露辞典』下巻は、1811（文化8）年、国後島で捕らえられたロシア軍艦ディアナ号艦長ゴロウニンの所持品であったものである。辞典の表紙裏にゴロウニン本人のものと思われる書き込み（裏表紙図版）がある。

上巻（一橋大学社会科学古典資料センター所蔵）の書き込みや、ゴロウニン著『日本幽囚記 中』（井上満訳 岩波書店 1948）（K381/694）の記述から、ゴロウニンはこの辞典を1802年にペテルブルクで購入し、解放されて帰国する際に通詞たちに贈ったものであることが推測される。（「葵」56号参照）

時空を超えて現存する貴重書は歴史の重みを感じさせてくれます。

静岡県立中央図書館は令和7年4月に創立100周年を迎えました。開館以来の歴史に思いを馳せつつ、新たな100年に向けて一步を踏み出します。

葵 59 号

令和7年6月1日発行

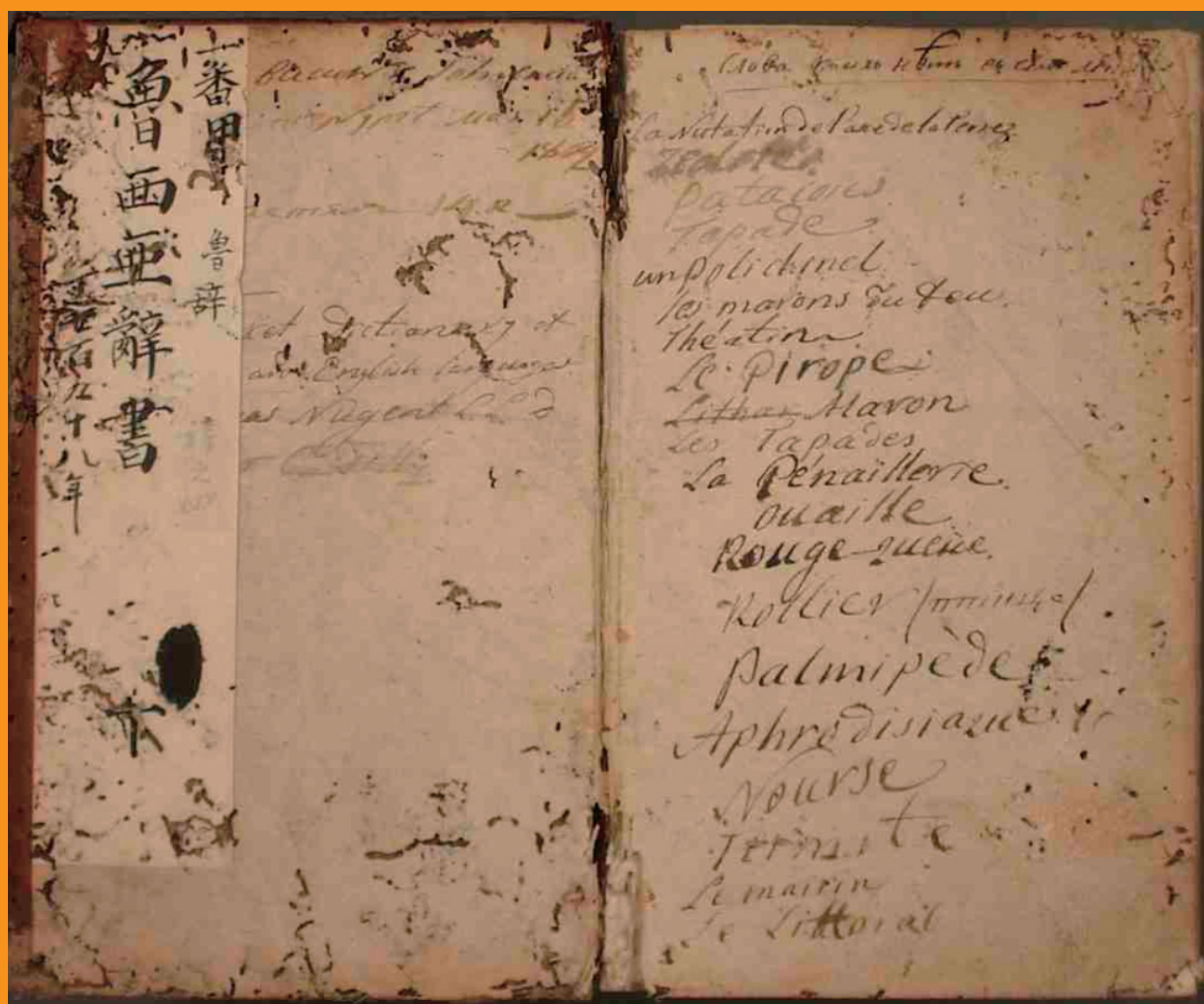
編集・発行 静岡県立中央図書館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-1

電話 (054) 262-1242(代)

FAX (054) 264-4268

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>



創立100周年

静岡県立中央図書館